

令和 4 年度

関川村グリーンチャレンジ戦略策定検討業務

村民アンケート調査

令和 4 年 9 月

関 川 村

1-1 意識調査

1-1-1 村民アンケート調査

1. 調査概要

(1)調査目的

本村におけるゼロカーボンに関する課題や政策の方向性について、村民の考えや意見を把握し、施策に反映することを目的とする。

(2)調査方法

- ①調査地域: 関川村全域
 - ②調査対象: 関川村在住の小学4年生以上の全村民(介護施設への入所者は除く。)
 - ③配布数: 4,646人
 - ④調査方法: 郵送回答方式及びWEB回答方式
- 調査期間: 2022年6月30日～2022年7月15日

(3)調査項目

- ①回答者の属性 (Q1-1～6)
- ②地球温暖化に関する取組状況や日頃感じることについて
 - 地球温暖化に関する関心及び脱炭素に関する認知度 (Q2-1～3)
 - 地球温暖化防止に向けた取組について (Q2-4～10)
 - 脱炭素に関する村への要望 (Q2-11～12)

(4)回収結果

- ①総回収数 : 1,292票(郵送1,229票・WEB63票)
- ②回収率 : 27.8%(1,292票/4,646票)

【アンケート票】

2050年ゼロカーボン[®]に向けた村民アンケート調査への
ご協力をお願い

日頃から村政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、関川村では、2050年のゼロカーボンの実現に向けて再生可能エネルギー（再エネ）や省エネルギー（省エネ）に関わる各種調査や取組の検討を行っています。
具体的には「関川村の今後の取組」(別紙)に記載の事項について検討を行う予定です。
このアンケート調査は、村の中心的役割を担う村民の皆様から、脱炭素化に関する取組の状況や課題、本村の政策への理解度等について、お考えやご意見をお聞きし、施策に反映するために実施するものであり、全村民を対象として調査を行っています。
回答は無記名で行い、ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理いたしますので、**回答された情報を公表することや、本調査以外に使用することはありません。**
お忙しいところ誠に恐縮ですが、本アンケート調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

令和4年7月 関川村長 加藤 弘

……ご回答にあたってのお願い……

1. 本アンケートは、回答用紙での回答のほか、Webでも回答可能です。ゼロカーボンについて、「国内外で注目を浴びる「ゼロカーボン（脱炭素）」とは？」で解説をしています。参考資料としてご覧ください。

①用紙での回答

・アンケート調査票の設問の回答を回答用紙にご記入ください。

②兼Bでの回答

・右記のQRコードよりアンケートサイトに接続し回答してください。

【QRコード用紙用QRコード】



2. 世帯の代表者様は**令和4年7月10日（日）消印有効**までに、**世帯分の回答用紙のみ（設問用紙を除く）をまとめて同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに郵便ポストにご投函ください。**なお、メールやFAXでの回答も受け付けております。

アンケート調査機関（委託先）
大日本コンサルタント株式会社 環境エネルギー推進部 奥島、奥竹、新井
〒330-6011 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2 L.A.タワー
TEL：048(6)13-4858 / FAX：048(6)00-6681 / Eメール：r04-esk@kama-energy@nec.com.jp

アンケート調査に関する問い合わせ先
関川村 地域環境課 環境推進室 大島、富田、小島
〒959-3202 新潟県対馬郡関川村大字第912番地
TEL：0254-64-1478 / FAX：0254-64-0079 / Eメール：det@taisanvill.ek.kkama.lg.jp

※ 地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出量を削減することは、脱炭素化やカーボンニュートラルとも呼ばれます。

アンケート調査票（設問用紙）

◆ご回答いただく方の情報についてお伺いいたします。

Q1-1. 世帯内での属性をお答えください。

- ①世帯主 ②世帯主以外

Q1-2. 性別をお答えください。

- ①男性 ②女性 ③回答したくない

Q1-3. 年齢をお答えください。

- ①10歳代 ②20歳代 ③30歳代 ④40歳代
⑤50歳代 ⑥60歳代 ⑦70歳代 ⑧80歳以上

Q1-4. お住まいの地区をお答えください。

- ①下関地区 ②上関地区 ③四ヶ字地区 ④霧出地区 ⑤七ヶ谷地区
⑥九ヶ谷地区 ⑦川北地区 ⑧湯沢地区 ⑨女川地区

Q1-5. あなたのお住まいは、次のどれにあてはまりますか。

- ①一戸建て(自己所有) ②一戸建て(賃貸など自己所有以外)
③共同住宅(賃貸など自己所有以外)

Q1-6. ご職業をお答えください。

- ①会社員、公務員、団体職員 ②パート、アルバイト ③事業主
④自由業 ⑤農業 ⑥専業主婦、主夫
⑦学生 ⑧無職 ⑨その他

◆地球温暖化に関する取組状況や日頃感じることにについてお伺いします。

Q2-1. 昨今、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量の増加に伴う地球温暖化により、集中豪雨や異常高温等が増え、土砂災害や農作物への影響などが発生しています。こうした、異常気象などの気候変動が問題視されていますが、あなたは地球温暖化や気候変動にどの程度関心がありますか。

- ①関心がある ②ある程度関心がある ③あまり関心がない ④まったく関心がない

Q2-2. 菅内閣総理大臣は令和2年10月26日の所信表明演説において、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち「脱炭素社会」の実現を目指すとして述べました。

「脱炭素社会」とは、人の活動による温室効果ガスの排出量と森林などによる吸収量が等しくなり、排出実質ゼロとなる社会をいいます。
あなたは、「脱炭素社会」について知っていましたか。

- ①知っていた ②言葉だけは知っていた ③知らなかった

Q2-3. Q2-2で「知っていた」と答えた方に質問します。何で知りましたか。（複数選択可）

- ①テレビ・ラジオ ②新聞・雑誌・本
③学校などの教育機関 ④家族・知人・友人
⑤シンポジウムなどのイベント ⑥環境省のポスター・パンフレット
⑦環境省のホームページ
⑧地方公共団体や民間企業などのポスター・パンフレット
⑨地方公共団体・民間企業のホームページ
⑩TwitterやFacebookなどのSNS
⑪その他

Q2-4. 脱炭素対策として、あなたが日頃から実施している取組をお答えください。（複数選択可）

- ①節電（こまめな消灯、家電のコンセントを抜く等）
②寝袋や重ね着などによる、冷暖房の設定温度の適正管理
③自転車や公共交通機関の利用、エコドライブの推進
④省急便の再配達防止（宅配ボックスの設置等）
⑤家庭ごみの減量化・資源化
⑥地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入やサービスの利用
⑦脱炭素や環境保全に関する情報収集や勉強
⑧いずれも実施していない
⑨その他

Q2-5. 脱炭素対策として、今後、あなたが実施したい取組をお答えください。（複数選択可）

- ①節電（こまめな消灯、家電のコンセントを抜く等）
②寝袋や重ね着などによる、冷暖房の設定温度の適正管理
③自転車や公共交通機関の利用、エコドライブの推進
④省急便の再配達防止（宅配ボックスの設置等）
⑤家庭ごみの減量化・資源化
⑥地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入やサービスの利用
⑦脱炭素や環境保全に関する情報収集や勉強
⑧いずれも実施したくない
⑨その他

Q2-6. 世帯主様のみにお聞きします。地球温暖化対策として、あなたの家庭で実施している行動をお答えください。（複数選択可）

- ①太陽光パネル等の再エネによる発電設備の導入
②太陽熱を使った熱利用設備の導入（太陽熱温水器等）
③木質バイオマスを使った熱利用設備の導入（薪ストーブ等）
④再エネ電力プランの契約
⑤省エネ家電の購入（LED照明、エネルギー効率の高い冷暖房設備等）
⑥家庭用蓄電池の設置
⑦家庭の電気使用の最適化を図る仕組み（HEMS）の導入
⑧家庭用燃料電池の設置（エネファーム等）
⑨エコカーの購入（ハイブリッド車や電気自動車）
⑩農作業用具の電動化（刈払機等）
⑪いずれも実施していない⇒Q2-7を自己回答ください
⑫わからない
⑬その他

Q2-7. 世帯主様のみにお聞きします。Q2-6で「①いずれも実施していない」と答えた方にお聞きします。地球温暖化に関する行動を実施していない理由をお答えください。（複数選択可）

- ①温暖化に興味がない
②温暖化対策の必要性を感じない
③温暖化対策実施によるメリットがない
④温暖化対策実施のための情報が得られない
⑤温暖化対策について相談したいが窓口がない、わからない
⑥手続き等がわずらわしい、面倒である
⑦再エネ・省エネ設備等の導入費用が高い
⑧再エネ・省エネ設備等の維持費用が高い
⑨自宅の構造上、導入が難しい
⑩何をすれば良いかわからない
⑪その他

02-8. 世帯主様のみにお聞きします。あなたの家庭において再生可能エネルギーの導入や再生電力の購入を行っていますか。行っている場合は各項目の内容について可能な範囲でお答えください。

1. 再生電力設備を導入している ⇒ ①～④についてご回答ください	
①再生電力種類	回答例 太陽光発電、小型風力発電など
②使用方法	回答例 FIT による売電、自家消費など
③設備の出力	回答例 5kW など
④発電量	回答例 5MWh/年など
2. 再生電力利用設備を導入している ⇒ ①～③についてご回答ください	
①再生電力種類	回答例 太陽熱温水器、薪ストーブ、雪氷熱など
②設備の出力・規模等がわかる情報	回答例 集熱面積 3m ² 、出力 5kW、薪使用量 2kg/時など
③利用方法	回答例 給湯、冷暖房、食物等の冷蔵など
3. 再生電力を購入している ⇒ ①についてご記入ください	
①電力購入量	回答例 1MWh/年、10万円分/年など
4. いずれも実施していない	

02-9. 世帯主様のみにお聞きします。地球温暖化対策として、今後、あなたの家庭で実施したい行動をお答えください。(複数選択可)

①太陽光パネル等の再生エネルギーによる発電設備の導入
②太陽熱を使った熱利用設備の導入 (太陽熱温水器等)
③木質バイオマスを使った熱利用設備の導入 (薪ストーブ等)
④再生電力プランの契約
⑤省エネ家電の購入 (LED 照明、エネルギー効率の高い冷暖房設備等)
⑥家庭用蓄電池の設置
⑦家庭の電気使用の最適化を図る仕組み (HEMS) の導入
⑧家庭用燃料電池の設置 (エネファーム等)
⑨エコカーの購入 (ハイブリッド車や電気自動車)
⑩農業用器具の電動化 (刈払機等)
⑪いずれも実施したくない
⑫わからない
⑬その他

4

02-10 村では村内での再生電力の導入を進めていきたいと考えています。村内で作られた再生電力の利用に関する考えについてお答えください。

①電力価格等の条件が現在と同じでなくても契約したい
②電力価格等の条件が現在と同じであれば契約したい
③電力価格等の条件が現在と同じであっても契約したくない
④わからない

02-11 脱炭素の実現に向けて、今後、行政が優先的に取り組むべきだと考えられる対策をお答えください。(複数選択可)

①家庭や企業の再生エネルギー等の設備導入費用への補助
②再生電力や省エネ家電の購入時にエコポイント等の特典を付与し、温暖化対策を促す制度
③地域の再生電力を地域内で使えるようにするための施策
④公共施設への再生エネルギー設備の導入
⑤二酸化炭素の吸収源である緑地や森林の整備促進
⑥役運への再生エネルギー導入等に関する相談窓口の設置
⑦家庭や企業への再生エネルギーの安心できる設備会社の紹介
⑧村民・事業所・行政など、地域全体が一丸となって取り組める体制の構築
⑨脱炭素化の機運を高めるための積極的な情報提供
⑩特に優先すべき取組はない
⑪その他

02-12. 国は 2050 年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目標に掲げました。国の目標達成に向けて関川村も 2050 年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指して取組を進めています。これらを踏まえて、今後関川村で行うべきと考えられる取組、あなたがイメージする 2050 年の関川村の姿、ゼロカーボン社会への希望や不安などがありましたら、自由にご意見をご記入ください。

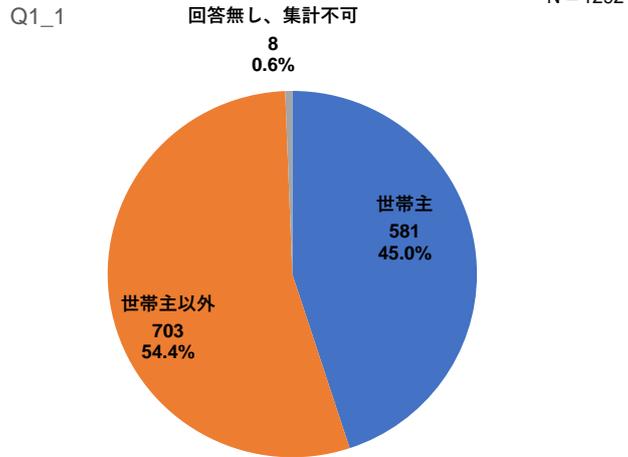
5

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

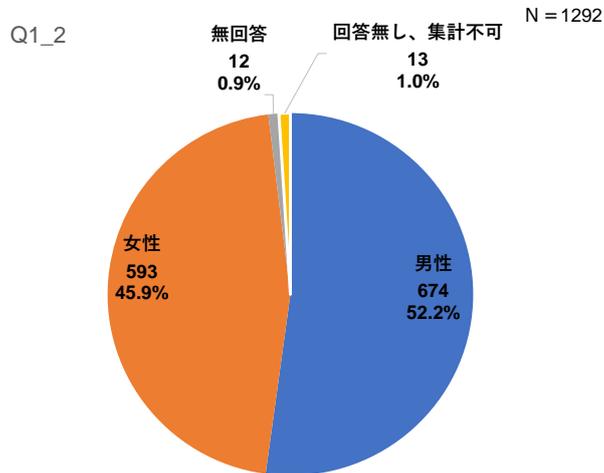
Q1-1: 世帯内での属性

- ・[世帯主]が 45.0%、[世帯主以外]が 54.4%と、概ね半数ずつとなっている。



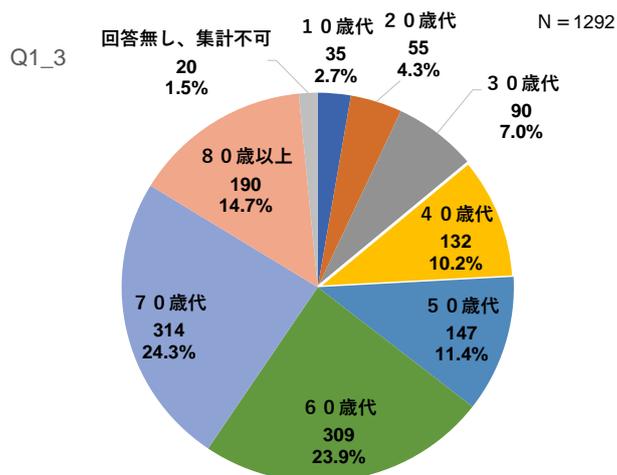
Q1-2: 性別

- ・[男性]が 52.2%、[女性]が 45.9%と、概ね半数ずつとなっている。



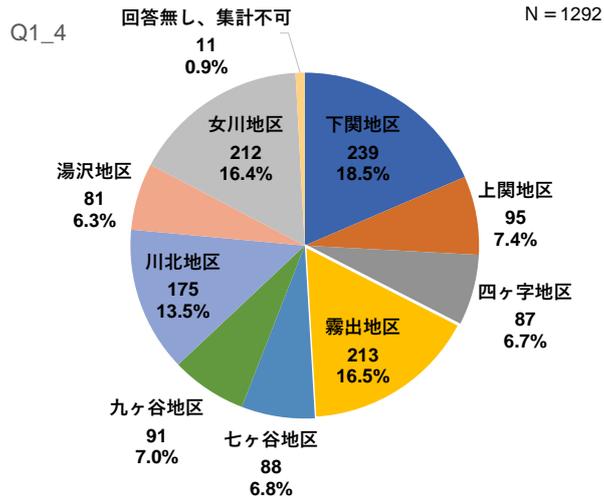
Q1-3: 年齢

- ・[70 歳代]が 24.3%、[60 歳代]が 23.9%と多く、次いで [80 歳以上]が 14.7%となっている。
- ・[60 歳以上]が 62.9%と半数以上を占めている。
- ・[10 歳代][20 歳代][30 歳代]は 10%以下である。



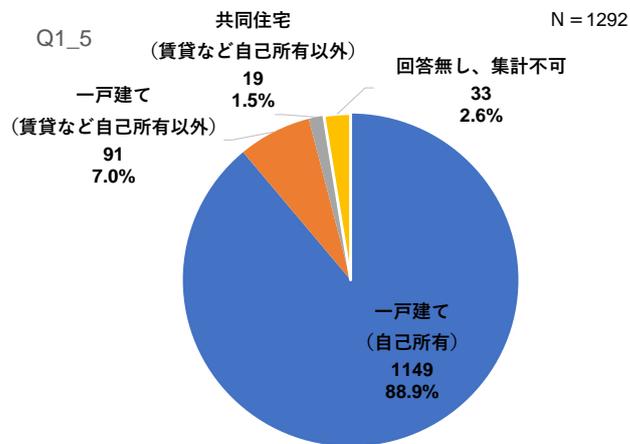
Q1-4:居住地区

・[下関地区]が 18.5%と最も多く、次いで[霧出地区]が 16.5%、[女川地区]が 16.4%となっている。



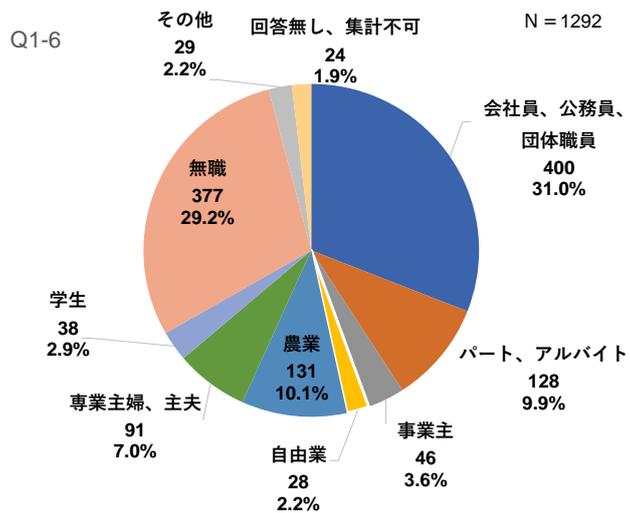
Q1-5:居住形態

・[一戸建て(自己所有)]が 88.9%と、約9割を占めている。



Q1-6:職業

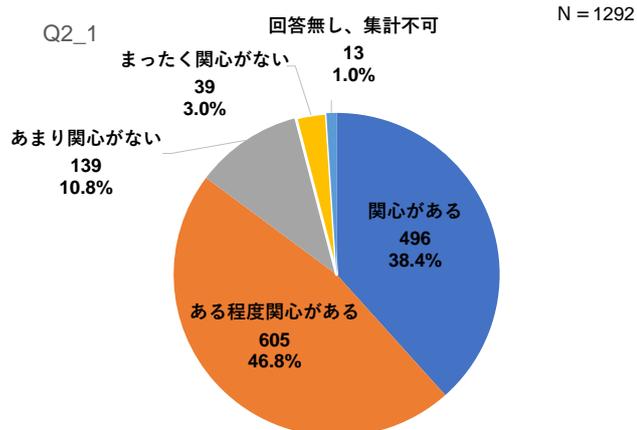
・[会社員、公務員、団体職員]が 31.0%と最も多く、次いで[無職]が 29.2%となっている。



(2)地球温暖化に関する関心及び脱炭素に関する認知度

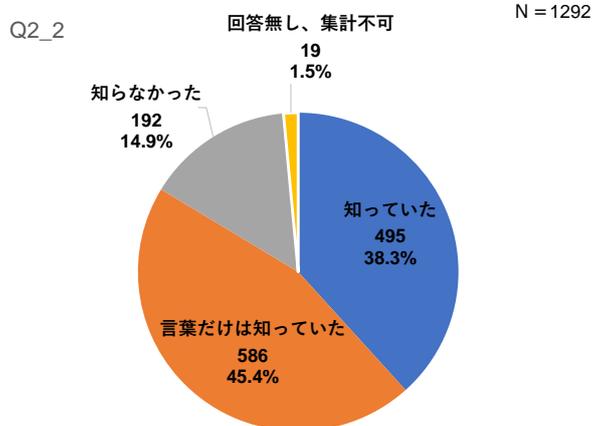
Q2-1:地球温暖化や気候変動への関心

・[関心がある]と[ある程度関心がある]が併せて 8 割以上を占めている。



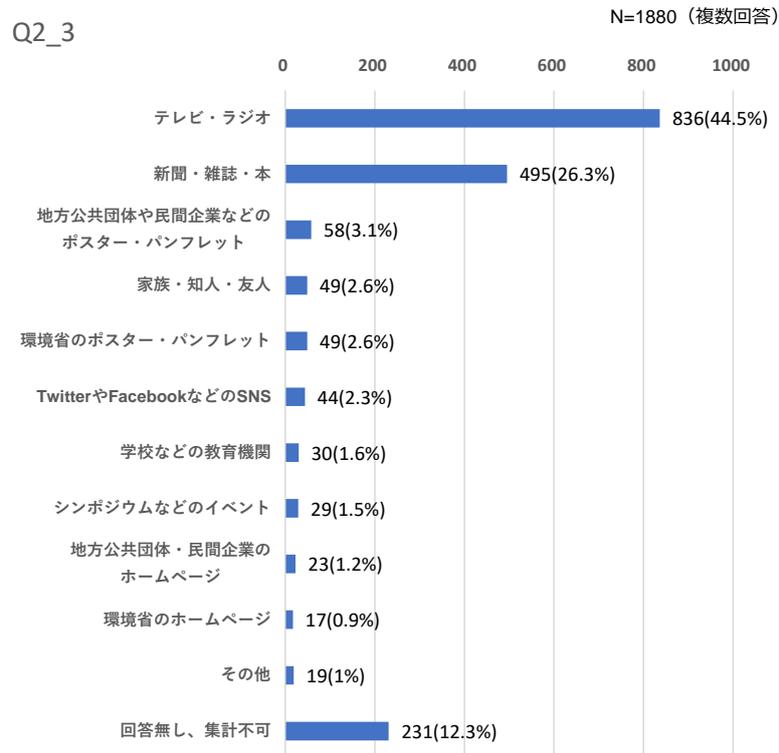
Q2-2:「脱炭素社会」の認知度

・[知っていた]と[言葉だけは知っていた]が併せて 8 割以上を占めている。



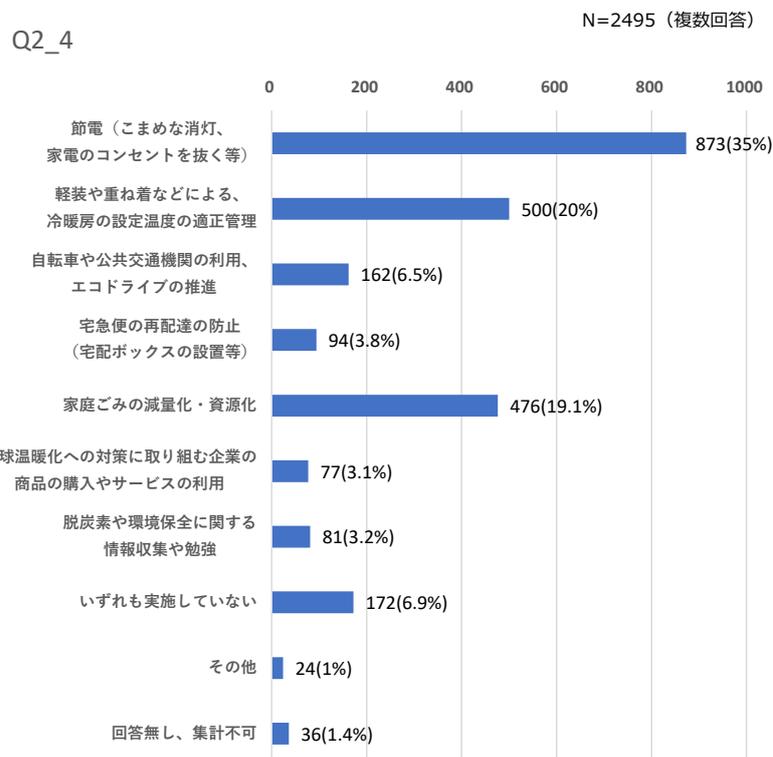
Q2-3:脱炭素の認知手段

・Q2-2 で【知っている】と回答した方々が「脱炭素社会」を知った手段は、[テレビ・ラジオが 44.5%と最も多い。次いで[新聞・雑誌・本]が 26.3%となっており、両方で約7割を占めている。



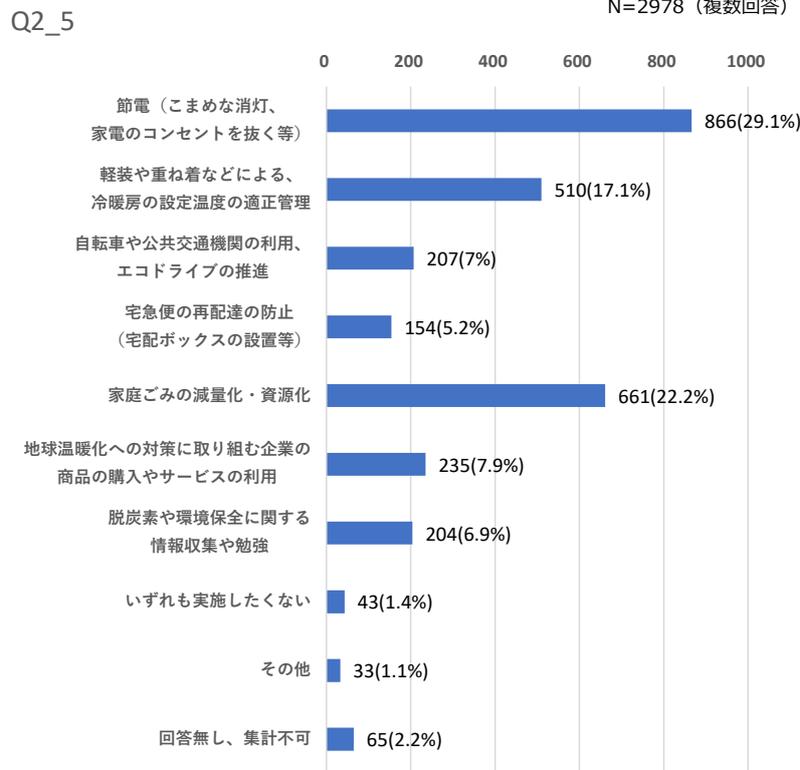
Q2-4:脱炭素対策の日頃から実施している取組状況

・最も多い回答は、[節電]の 35.0%である。次いで[軽装や重ね着などによる、冷暖房の設定温度の適正管理]が 20.0%となっている。また、[家庭ごみの減量化・資源化]も 19.1%と比較的高い割合となっている。



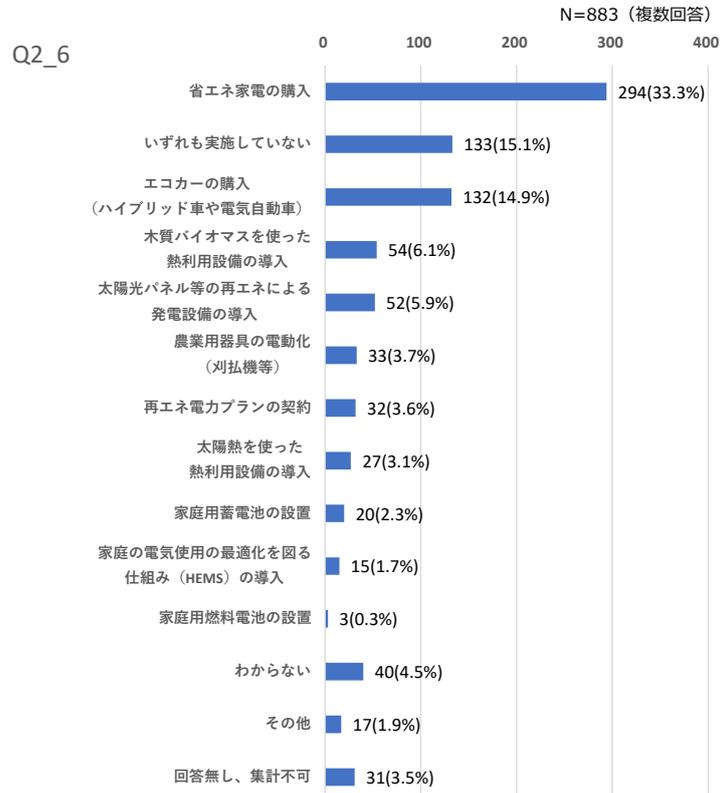
Q2-5:脱炭素対策で、今後、実施したい取組

・「今後実施したい取組」も、「日頃から実施している取組」と同様に、[節電]が29.1%と最も多く、[家庭ごみの減量化・資源化]や[軽装や重ね着などによる、冷暖房の設定温度の適正管理]が高い割合を占めている。



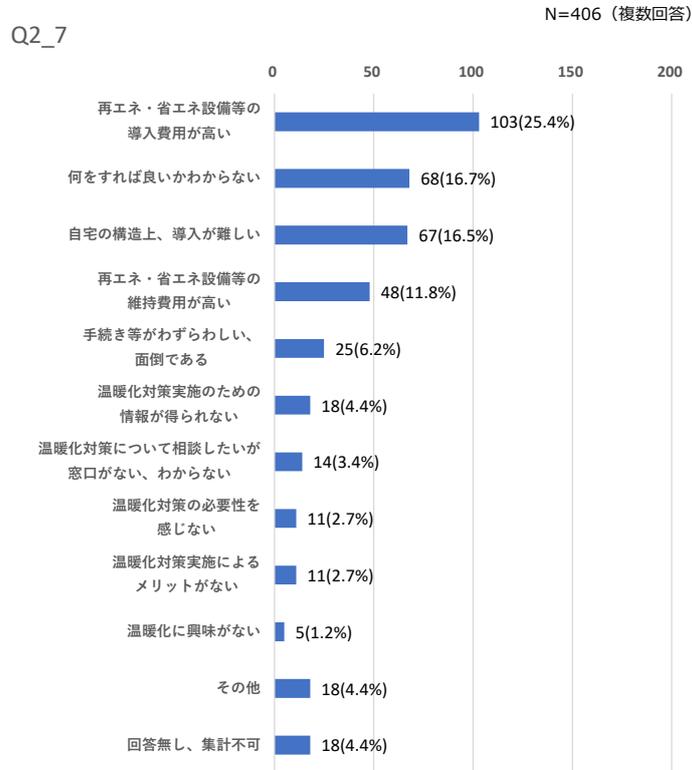
Q2-6:地球温暖化対策で実施している行動

・[省エネ家電の購入]が33.3%と最も多い。また、[エコカーの購入]も14.9%と高い割合を占めている。一方、[いずれも実施していない]が15.1%と高くなっている。



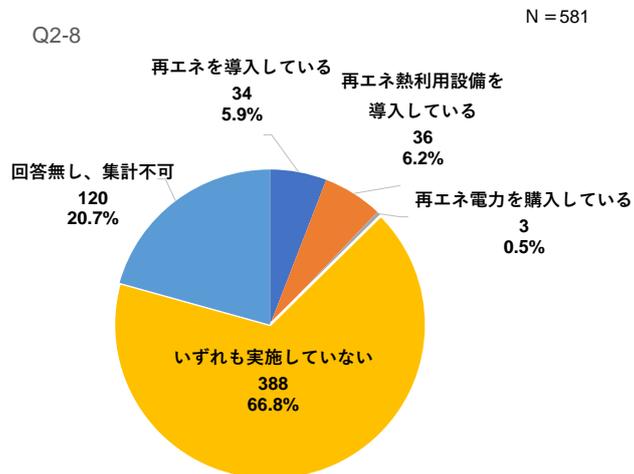
Q2-7:地球温暖化対策の取組を実施しない理由

・Q2-6 で【いずれも実施していない】と回答した方の取組を実施しない理由として、[再エネ・省エネ設備等の導入費用が高い] が 25.4%と最多。また、[自宅の構造上、導入が難しい][再エネ・省エネ等の維持費用が高い]も高い割合を占めている。一方、[何をすれば良いかわからない]が 16.7%を占めている。



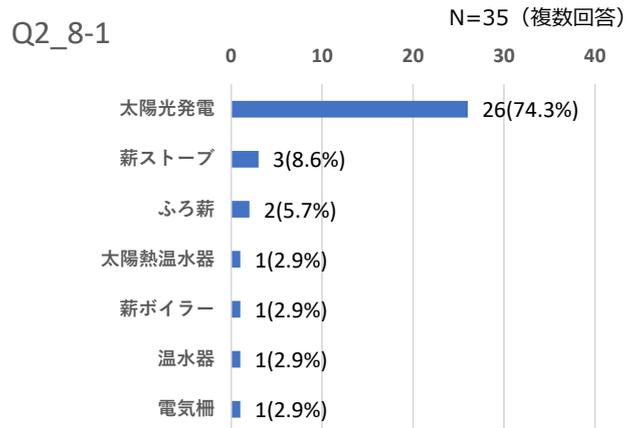
Q2-8:「再エネの導入」や「電力の購入」状況

・【いずれも実施していない】が約7割を占めている。



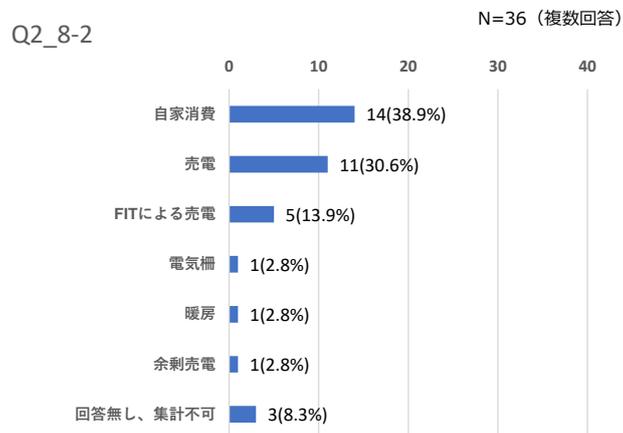
Q2-8-①:導入している再エネの種類

・Q2-8 で【再エネ発電設備を導入している】と回答した方が導入している再エネは、[太陽光発電]が約7割以上を占めている。



Q2-8-②:再エネの使用方法

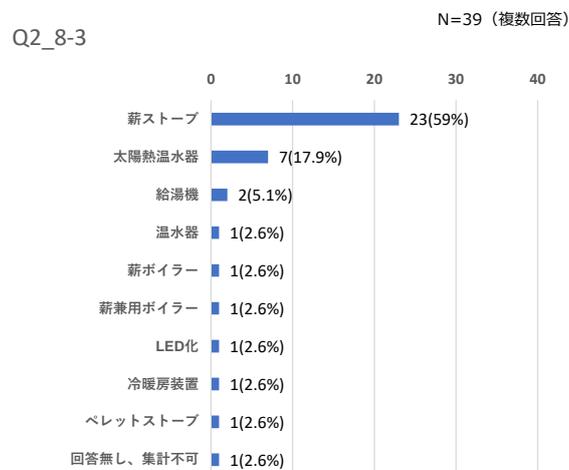
・導入している再エネの使用方法は、[自家消費]が38.9%である。また[売電]が30.6%、[FITによる売電]は13.9%であり、約4割以上を占めている。



※太陽光発電による出力は、3.2 kW～17kW の範囲である。発電量は、2.5mWh～11mWhとなっている。

Q2-8-③:導入している再エネ熱利用設備の種類

・Q2-8 で【再エネ熱利用設備を導入している】と回答した方が導入している再エネは[薪ストーブ]が約6割を占めている。また、[太陽熱温水器]も比較的高い割合を占めている。

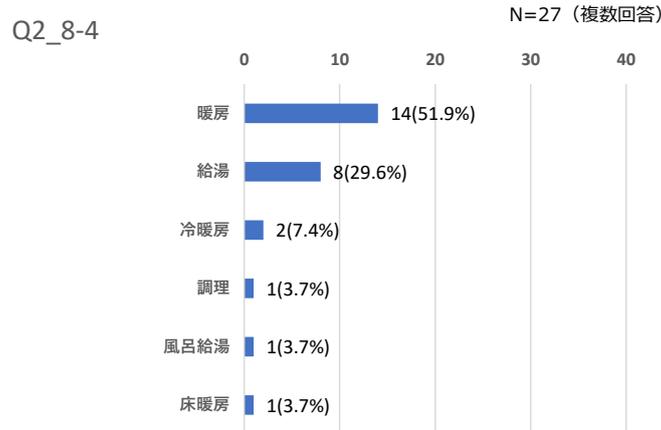


※設備の出力・規模等は、以下の回答が挙げられている。

薪ストーブ＝「82,500 円/年」「使用量 4t/年、10t/年、5kg/日」「発熱速度 17.44kw」「30 畳対応能力」など
太陽熱温水器＝「200ℓ～210ℓ」

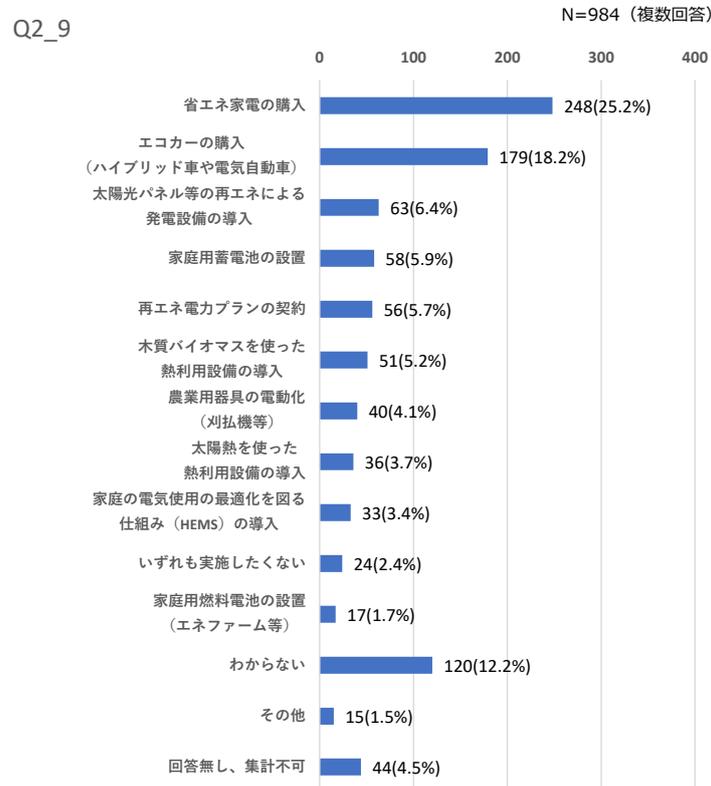
Q2-8-④:再エネ熱の利用方法

・導入している再エネ熱の利用方法は[暖房]が51.9%、[冷暖房]が7.4%と、全体の約6割を占めている。また、[給湯]も比較的高い割合を占めている。



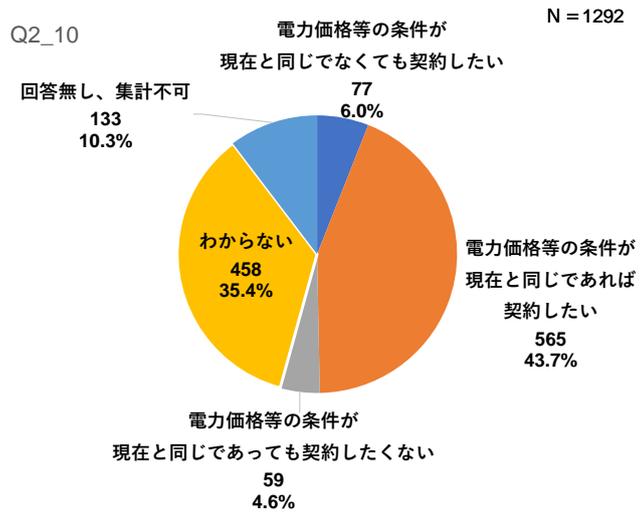
Q2-9:地球温暖化対策として、今後家庭で実施したい行動

・「実施している行動」と同様に、[省エネ家電の購入]が25.2%と最も多く、次いで[エコカーの購入]が18.2%となっている。



Q2-10:村内で作られた再エネ電力の利用に関する考え

- ・[電力価格等の条件が現在と同じであれば契約したい]が43.7%と最も多い。
- ・[電力価格等の条件が現在と同じでなくても契約したい]を含めた【契約したい】との回答が約 5 割を占めている。

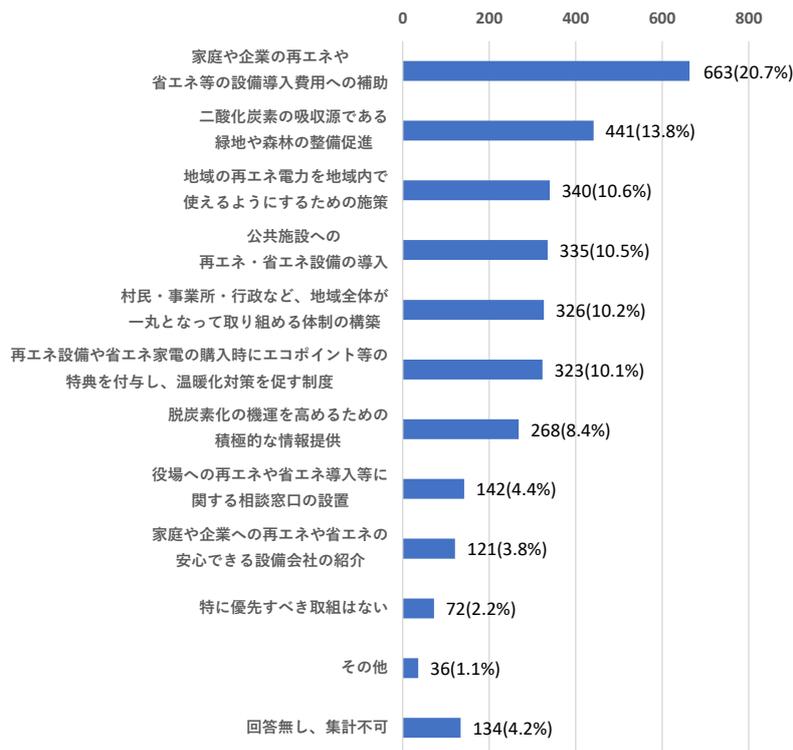


Q2-11:今後、行政が優先的に取り組むべき対策

- ・[家庭や企業の再エネや省エネ等の設備導入費用への補助]が 20.7%、次いで[二酸化炭素の吸収源である緑地や森林の整備促進]が 13.8%となっている。また、「施策づくり」「設備導入」「体制構築」「制度づくり」に関する対策も比較的高い割合を占めている。

Q2_11

N=3201 (複数回答)



(3)村への環境に関する意見・要望(Q2-12:自由記述)

【ゼロカーボン施策に関する事項】

- 女・60歳代:20年、30年後の先を考えた森林を林業関係者だけでなく、ボランティアや村民の意思で、自分で出来ることに参加できるような体制。温泉熱を融雪に使ったり、川の水で小さな集落ごとの発電を作ったり出来たらいいと思います。
- 男・30歳代:冬の雪を貯蔵し、夏場に利用できるようにする。
- 男・60歳代:革新的なソーラー発電技術の一つ、ペロブスカイト太陽電池をモデルケースとして森林にフィルム巻き、発電し、村内で地産地消を実施する。
- 女・60歳代:具体的な数値・事例等を挙げての情報提供をお願いします。2050年に向けて段階的な取組の実施が行われ目標達成の(見通し、実感)が持てるようになると良いと思います。
- 男・60歳代:村内の家庭で冬以外雪の利用で冷暖、冷蔵の発明。
- 男・30歳代:公共交通機関を充実させ、車がなくても暮らせるようにしたほうが良い。
- 男・60歳代:関川村は自然豊かなところです。森林の利用など省エネやエコをやりたくても自由に木材を使ったり出来る仕組みを考えてほしい。
- 男・60歳代:村による電動式草刈り機や除雪機などの貸出を行ってはどうか。
- 女・80歳代:温室効果ガス排出量の削減方法について、最も身近な行動範囲を全世帯へ周知徹底されたい。
- 男・70歳代:LEDの照明器具等はまだ高いので購入時は村として補助金を出してもいいのでは。
- 男・70歳代:国の目標「2050年ゼロカーボン」地方自治体と同じ目標で取り組むのは無理があります。(企業や個人も同じ)短期、中期、長期的に取り組むべき具体的目標を自治体、企業、個人(集落等含め)単位に立て、行政が支援することが大切と考えています。
- 男・70歳代:設備導入には多額の費用が必要になり、助成等がなければ簡単には出来ない。また森林組合と歩調を合わせ山林、森林整備も積極的に進めてほしい。
- 男・70歳代:住宅の省エネについて重点をおいてほしい。
- 男・70歳代:休耕田等利用し、太陽光パネル発電を進めてはいかがですか。
- 男・70歳代:荒川、大石ダム利用・水をうまく利用してもらいたい。田んぼでポンプアップしている所で電気をおこす。
- 男・60歳代:まずは第一として公共施設等の省エネ設備を完全に実施する。
- 不明・80歳代:農業用水を利用した小水力発電所の設置など。廃校舎の利用(太陽光発電)。
- 男・60歳代:森林の整備と活用を進めて欲しい。その為にも林道を造って欲しい。また、山林の所有者も若い人になると関心がうすれ荒れ放題になっている。早く手を打たないとどうにもならなくなる。(下関の個人所有の団地)
- 男・70歳代:将来、耕作放棄地等々広大地を利用した風力発電機の設備。
- 女・70歳代:耕作放棄地を利用し太陽光発電を設置する。森林資源を管理する間伐材を発電や暖房に使用。
- 男・80歳代:村内にある森林で国有林、村有林、集落有林、すべてに置いて林道の整備を村で行うことが良い。山林の整備を実施することが大事。
- 男・60歳代:環境省のバックアップにより、垂直軸型マグナス式に発力電を導入する。現在、フィリピンで実証事業を実施していることにより、本村も全国に先駆け、実証導入すべきである。
- 女・50歳代:再エネ電力利用のモデルケースを作って、問題点を改善してから普及させた方が良くと思う。どのような対策をすると、温室効果ガス排出量を実質ゼロにできるのか、具体的に数字を表示してほしい。
- 不明・50歳代:水力発電の充実(水車など)・山車の風の活用・雪を使った電力・日陰の整備。
- 女・60歳代:してほしくないこと→再生可能エネルギーの名のもとに豊かな自然を壊して巨大な風力発電を行うこと(本末転倒)。小水力や地熱発電などそれぞれの地域に合った発電を小規模に行い各地域でそれを使える電気の地産地消。畜電システムができるといいと思います。
- 男・60歳代:村内で使う電力を村内での再エネ等でまかない村民の電力負担を少なくすることで住みや

すい村にすることができれば人口増にもなるのではないのでしょうか。(ヨーロッパの小さな村でもやっている所がある)

女・30 歳代:電気自動車を買う際の補助。相談できる窓口があるといい。

男・40 歳代:電力の確実な供給を目指し太陽光、風力の活用、料金体系の安定化。

男・70 歳代:電力の地産地消のため、周辺自治体と連携して再エネ電力発電施設を作るべきだ。

男・70 歳代:間伐材等を利用してペレット製造会社を作り再生エネを増やしてほしい。地産地消。

男・80 歳代:現在、水田用水に荒川から電力ポンプ UP しているが畑地(高台)に、ため池用水のための用水池の設置等を考えてもらいたい。耕作放棄している畑地も見受けられる。

女・10 歳代:各家庭における太陽光パネル設置を推奨し、導入時の費用負担、補助。

女・50 歳代:耕作放棄地に太陽光発電を設置する。

女・70 歳代:森林の間伐をどんどんやってきれいな山の姿を取り戻したい。荒れ放題の田、畑を利用する方法を考えてほしい。

男・30 歳代:本アンケートで世帯の人数分、協力依頼の紙(設問用紙)が入っていたが 1 枚で事足りるはず。こういった細かいことから資源の無駄遣いを意識して取り組むべき。ゼロカーボンに掲げるのは良いが、村の財政、実現可能性、持続性等を踏まえた現実的な施策を考えていただきたいと思います。

男・70 歳代:省エネ設備を導入するとしても維持費、経費がかかる、お金がない。

女・60 歳代:都会の電力を地方で作り送っている。そのしわ寄せが地方にきている。国に都会の電力はその土地で作るよう促してほしい。

男・60 歳代:「ゆーむ」に薪ボイラーを導入し、ボイラー要員を雇用する。温泉を利用してバイナリー発電に取り組む。避難所毎に木質バイオマス発電を設置する。

男・40 歳代:バイオマスの件もあるので十分に検討、対策をした上ですべてを取組んで欲しい。(安易に考えないように。)

男・30 歳代:省エネ住宅促進のための補助金等の整備。移住者も増えるのでは村の活性化にもつながる取組み。

男・70 歳代:公共施設の通エネ・省エネ早くすすめる。

男・70 歳代:薪ストーブ導入に当たり、改築に伴う経費が割高になり、その改築の建築を担当する大工等が不在の為補助金を多くして頂ければ良い。

男・70 歳代:風力発電を早めに作って電力がいつばいできたら村の電気がただくらいになってもらいたい。2050 年を村では 2030 年くらいまでに作ってもらいたい。

男・50 歳代:ハイブリッドカーや電気自動車などの車購入補助。太陽光発電や風力発電設置に対する補助金。太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーからの売電価格へ上乘せ補助金。関川村の住宅大屋根全てに太陽光発電を上げて発電。水力発電を研究している大学と協力して大石川、女川などに小規模水力発電や田んぼの用水でもできる小型水力発電の設置研究。温泉宿と協力して地熱発電。また、以上の全てに関して継続的な情報発信と共同研究してくれる大学や企業を探す。以上全てに関してスポンサーを探す。所有している山の手入れの費用の補助、また山の手入れの作業員の募集(U ターンや I ターン)や山の手入れのアルバイト作業員を多く雇う。

男・50 歳代:高齢者が多いので自己負担の少ない方法で実現してもらいたい。

男・50 歳代:関川村には自然エネルギー発電の水力発電所が3ヶ所もあり、すでに実質ゼロを達成しているのではないかと。現在のCO2 排出量を明示し、2050 年に向けてCO2 排出量をいくりにするのか明らかにしてほしい。大気中のCO2 濃度と温暖化の関係は証明されましたが、現在の大気中のCO2 濃度は約 0.04%と言われているが、この濃度をいくりにする目標なのかを示してほしい。ICPP? の報告によると 2020 年の人的なCO2 排出量は約 20%減少しているが、自然界からの排出量の増加によりトータルでは排出量が増加したようだが、自然界の排出量(吸収量)をコントロールできるような対策にも注力すべきではないか。森林の吸収量を増加する対策を検討されているが、それに追加し関川村の環境を生かして水田、湿田、河川などの吸収量を増加させる対策も合わせて検討してほしい。太陽光・風力・小水

力発電などの導入促進を計画されているようだが、太陽光発電であればペロブスカイト太陽電池の活用など新技術の情報収集も行ってほしい。国の補助金政策に乗って始めるだけでなく数十年先の将来まで考えた計画立案・実施をすすめていただきたい。

男・50 歳代：用水路発電によって家庭や企業のエネルギーゼロ化。それにより企業や近隣からの移住。太陽光は谷地では不向きです。中小の水力発電モーターで済みますよ。「ゆーむ」以来のヒット企画よろしくお願ひいたします。

男・40 歳代：村民が減少している中で、今後設備投資は無理と考えている方が多いと思われる。やはり行政の取り組みとして政府より世帯年収等で補助金額が増えるような取り組みをして頂きたい。

男・50 歳代：小さな資源の発掘。具体的には用水を利用したマイクロ水車の設置。地産地消に向けた意識改革。耕作放棄地への植林(雑木)。荒廃した山林の再生(ブナ、ケヤキ栗等の空中からの実の散布による再生、野生動物の里への被害の予防)。天然の用水路の構築による両生類、魚類の生息復帰。雪を利用した蓄熱モデル事業の開発。関川村の天然水の販売事業。温泉水の販売事業など。

【リサイクル・ゴミに関する事項】

女・40 歳代：プラごみの分別・不法投棄や違法なごみの焼却を厳しく取り締まる

男・50 歳代：プラスチックの利用促進の法が今年 4 月に施行されているので関川村も分別回収を進めたら良いのではないかと思います。社会・環境インパクトパスの行政としての数値化を広報紙において告知されたら良いと思います。

男・60 歳代：ゴミ分別が他市町村(他県含め)より悪い。なぜ、プラゴミを回収しないのか？(すべて可燃ごみとして出して処理されている)

女・50 歳代：ゴミの分別の仕方が関川村は遅れていると思う。せめてプラゴミは分別すべきと考える！

女・60 歳代：生ごみなどの利用法などを考え、畑の土に戻すなど実行していきたい。節電でこまめに切ったりしていきたい。

男・40 歳代：ゼロカーボンはおかしいところがたくさんあり過ぎる。パリ協定の中国への対応もメチャクチャだし、バイオマス発電も燃料を輸入していたのでは意味がない。そもそも環境改善は well to wheel で考えなければ全く意味がないのに、そういったことがほとんど見当たらない。山の多い関川村は森林がたくさんあるのでそれを使ったエネルギー・環境対策に取り組んで行くべきだと思う。間伐をして切った木を燃料(薪ストーブ)にして、切った木の変わりに成長の早い広葉樹を植えていけば充分サイクルできる。エコと仕事の創出が両立できると思う。

女・70 歳代：高齢者が多いこの村でも出来るだけ 1 軒に 1 枚以上、太陽光パネルが欲しいです。余力があるなら蓄電器も。家庭ごみも資源ごみは丁寧に分別し、量を減らすよう、より心掛けたいです。もう少しきめ細かな分別が出来ればゴミの量も減ると思うのですが。

【地域課題について】

不明・80 歳代：大自然に恵まれた関川村をあらゆる角度から検討し豊かな関川村に向け、観光もかねた関川村に努力してほしい。

女・60 歳代：関川村は自然豊かな所でもあり温泉施設を有効に利用して道の駅を活性化しつつ経済効果に繋がってほしい。関川の物産品、そして飲食店も周りにあれば客足も多くなるように思います。観光面も力を入れてほしいです。

女・60 歳代：人口減少が気になる。

男・70 歳代：ゼロカーボンに向けての国の施策に協力することは良いことであるが、それよりもっと村政にしっかり取り組んでほしい。

女・60 歳代：年々空き家が増える昨今、又、耕作放棄地も問題です。後継者が最後となった世帯に土地活用を未来に公での活用契約を取る等荒地とならないようにしながら再エネ生産活用の場となったりしたらどうかと色々な法があり大変ではありますが考えます。

男・30 歳代：関川村においては脱炭素よりも他に企業誘致や観光業に力を入れる方を優先すべき。

男・60 歳代：段階的な年度ごとの目標指数を分かりやすく村民に伝えた取組みが必要だと思う。

男・50 歳代：道の駅だけではなく、スキー場を復活し、村民の健康意識の向上を図り、春夏秋冬の観光資源を考える。その上で、使用する電力の脱炭素化などを進めるべき。

男・60 歳代：約 30 年後、関川村の人口は 3,000 人位になっているのではないかと考えると、取組を進めても効果は少なくなるのではと思う。

男・50 歳代：ゼロカーボン社会を具体化した宿泊リゾートを作れば観光客や来村者が増えるのではないのでしょうか。

男・80 歳代：ゼロカーボン対策よりも先にやるべきことがあるのではないかと。村の人口減少対策、空き家対策、高瀬温泉のゴミ屋敷問題など。

女・70 歳代：関川村のような田舎ではマイカーは大事な交通手段です。仕事によって早朝出勤など働き方も様々ですが、毎日誰も乗っていないバスも走っています。ある程度決まった勤務の人は一か月に一回バスを利用してノーカーデーを試みてはいかがでしょうか。

男・60 歳代：高瀬に廃屋になって建物がいくつかある。使える建物と温泉を利用してハウス栽培でそこに適した農産物を作り、それを村の特産品にできないものか。

女・60 歳代：道の駅周辺の整備は良いと思うが、村外の人に来てお金を使っていくところは少ない。お金を使う場所を増やす必要があると思う。

男・70 歳代：村からの強い指導が必要と思っている。

男・40 歳代：国のハイブリッド車、電気自動車購入時の助成金とは別に村での助成金をプラスして、より多くの人に低燃費の車を購入できるようにしてもらいたい。(定価の半額くらいまで)村上市のようにプラゴミの分別を同じようにしてほしい(ペットボトルの商品包装なども)

男・60 歳代：人口減少の対策が一番の必須事項。村民の知恵袋を一つでも多く借りるべきだと思います。

男・60 歳代：所有している山林の管理できていない。(人手、費用の問題)

不明・50 歳代：老人が多いこの村がどれほど変われるか想像できない。今でも薪ストーブを使っている家もかなりあるのに何とも言えない。

女・50 歳代：省エネ住宅の必要性和効率について住民に指導してほしい。

男・40 歳代：①エコカー、家庭用蓄電池、太陽光補助金 ②生ゴミをコンポストで堆肥化し家庭菜園や農家で有効活用 ③休耕田や畑を貸し出す制度作り(空き家とセットで貸し出す等) ④白熱灯の LED 化推進 ⑤森林保全と木材資源利用の強化 ⑥ICT 農業の推進

女・40 歳代：一世帯に一部で足りるような資料や案内文に配慮すべき。役場は省エネの手本となるように！！Ex.夜間 20 時過ぎまで電気が 1F～3F 毎日ついています。

女・50 歳代：わかぶな高原スキー場に風力発電。そこまで行けるように観光化。ライトアップ。これは十年以上も前に夫が訴求していたのに、このようなアンケートで今頃？？？っていう感じがします。高瀬温泉に地熱発電も二十年以上前から夫が言っています。温泉宿も寂れていくし勿体ない。地熱発電は開始までにお金も年数もかかりますが、自治体だけではなく大企業との協業でモデル自治体となれるような事業の取組を行うべき。関川村は常にどこかの誰かの後追いで新しいものがない。いい意味でも悪い意味でも。あるものを活かす。古くて新しいものを創る。でも村全体で取り組まないと難しい。でもやっぱり村を何とかしたい。コスト等の有名な企業の誘致で財源を確保。道の駅(かつらのせき)は小さく集客力がない。市場(いちば)的な農家の人々が作った農作物や食べ物を安く販売する大きい施設をつくる。わざわざ村外からも来なくなるような。日本初の洗車機、そこを通過すると車がみんな綺麗になるような大型洗車機を並べた施設や電気スタンド等、抜き出した特色を持った施設とか。だって車社会だし水は豊富。村には水力発電の会社があります。そことタイアップして小さくてもできる水力発電所をつくる。

女・80 歳代：小学生の頃、人間は酸素を吸って炭酸ガスを排出し、その炭酸ガスをすって空気をきれいにしてくれるのは緑の木だと習った。今、木の葉っぱやせん定した枝の始末に困るようになりました。

男・50 歳代：森林と観光をマッチさせ co2 削減と同時に観光収入を得るプランを始める。具体的には適

切に手入れした森林モデルを準備し一般公開し、手入れした森林ほど co2 を吸収する事をアピール、十数年計画で森林を整備し単位面積当たりの co2 削減が多い村、または村になる事をアピールする。森林モデルの見学、森林 co2 削減プランモデルルームなどで入場収入を得る等を行う。

男・40 歳代：村内の住宅は昔ながらの日本家屋が多く、十分な断熱が行われていない場合も多々見られます。住宅の高断熱化リフォームを推進する事により、冷暖房の効率化による CO2 排出量削減が行えると考えます。また特にお年寄り世帯では、夏の熱中症、冬のヒートショックの防止にもつなげる事ができると思います。

男・40 歳代：周辺の市町村のマネをするのではなく、人口が少ない村である強みを最大限に活用して、様々な施策をスピード感をもって実施してほしい。期待しています。

男・20 歳代：温室効果ガス排出量を計器等用いて具体的に数値化し、広報せきかわ等に書いて村民に分かりやすく示す。

女・60 歳代：沼の山に風力ができるというが、電力は村に供給できるのか。単なる場所を貸すだけなのか。林業を発展させ自然を守ってほしい。

男・60 歳代：若者が帰って来ても働く場所があること。

男・40 歳代：村のカジ取りによっては良くも悪くもなっている難しい問題です。人口も減り、存続も危ぶまれるスローライフ、スローフード、自給自足に近いかも……。環境に優しい温暖化防止に取り組む姿勢があるなら、森林整備にもっと予算をつけて取り組むべきです。もっと村民にアピールをしてください。環境護与税の有効利用を進めてください。

男・70 歳代：村民の理解を得るための説明。

1-1-2 小・中学生アンケート調査

1. 調査概要

(1) 調査目的

本村におけるゼロカーボンに関する課題や政策の方向性について、村内の小・中学生の考えや意見を把握し、施策に反映することを目的とする。

(2) 調査方法

- ①調査地域: 関川村内
- ②調査対象: 小学4年生以上中学3年生以下の全村民
- ③配布数: 201票
- ④調査方法: WEB回答方式(各小・中学校内で実施)
- ⑤調査期間: 2022年7月12日～2022年7月17日

(3) 調査項目

- ①回答者の属性 (Q1～2)
- ②地球温暖化について
 - 地球温暖化に関する理解 (Q3～5)
 - 地球温暖化防止に向けた取組について (Q6～8)

(4) 回収結果

- ①総回収数 : 167票(Web回答167票)
- ②回収率 : 83.1%(167票/201票)

【アンケート票】

小中学生用 地球温暖化（ちきゅうおんだんか）についてのアンケート

このアンケートは、これからの村の中心となる小中学生のみなさんから、地球温暖化（ちきゅうおんだんか）について、考えていることや意見（いけん）を聞くために行うものです。みなさんから集めた意見を使って、関川村をより良いものしたいと考えています。

みなさんのお名前や回答（かいとう）はわからないようにしますので、正直（しやうじき）な意見を聞かせてください。よろしくお願いします。

令和4年7月 関川村長 加藤 弘

……回答にあたってのおねがい……

- 下のQRコードをタブレットでよみこみ、アンケートの回答ページに接続（せつぞく）して、回答してください。
- それぞれの質問の答えの中で、自分の考えにあってはまるものや近いものを選（えら）んでください。
- あてはまる答えがない場合（ばあい）は、「その他」のかつこの中に答えを入力（にゆうりょく）してください。
- 質問の中で答えたくない質問がある場合は、答える必要（ひつよう）はありません。

【アンケートのQRコード】



アンケート調査票

Q1. あなたの性別（せいべつ）を教えてください。【1つだけ選んでください。】

- ①男性 ②女性 ③ 回答したくない

Q2. あなたの学年を教えてください。【1つだけ選んでください。】

- ① 小学4年生 ② 小学5年生 ③ 小学6年生
④ 中学1年生 ⑤ 中学2年生 ⑥ 中学3年生

Q3. 私たちは毎日の生活の中で、さまざまな地球の資源（しげん）を使って生活（しやうか）をしています。とくに、電気や車などを利用するために、化石燃料（かせきねんりょう）を使っています。とくに、化石燃料（かせきねんりょう）を使っていますが、化石燃料を使うと二酸化炭素（にさんかたんそ=CO₂）が出ます。あなたは、生活によって二酸化炭素（にさんかたんそ=CO₂）が出ていることを知っていましたか？【1つだけ選んでください。】

- ①知っていた ②知らなかった

《化石燃料（かせきねんりょう）とは？》

化石燃料とは、石炭、石油、天然ガスなどのことをいいます。大昔の動物や植物の死（し）がい、地中（ちちゆう）の熱や圧力（あつりょく）を受けて変化（へんか）し、長い年月をかけてできたものです。そのため、化石燃料は、かぎられた資源（しげん）であり、一度使い切ってしまうと、二度と使うことはできません。また、化石燃料をもちやすと二酸化炭素（にさんかたんそ）が出るため、地球温暖化（おんだんか）の原因（げんいん）となります。

Q4. 私たちの生活により二酸化炭素（にさんかたんそ）や二酸化炭素（にさんかたんそ）を含む温室効果ガス（おんしつこうかガス）が空気（くうき）中にふえると、太陽（たいやう）から地球（ちきゅう）にふりそそいだ熱（ねつ）が宇宙（うちゆう）に逃げず、地球（ちきゅう）にたまってしまい、地球（ちきゅう）の気温（きおん）が上がります。これを地球温暖化（ちきゅうおんだんか）と言います。あなたは地球温暖化（ちきゅうおんだんか）を知っていましたか？【1つだけ選んでください。】

- ①知っていた ②知らなかった

《温室効果ガス（おんしつこうかガス）とは？》

温室効果ガスとは、地球（ちきゅう）が太陽（たいやう）からの熱（ねつ）を逃（に）がすはたきをするときに邪魔（じやま）をするガスのことをいいます。二酸化炭素（にさんかたんそ=CO₂）、メタン（CH₄）、フロンが温室効果ガスとよばれています。特に化石燃料（かせきねんりょう）などをもちやすと大量（たいりやう）に出る二酸化炭素（にさんかたんそ）が地球温暖化（ちきゅうおんだんか）の主な原因（げんいん）とされています。

Q5. 地球温暖化（ちきゅうおんだんか）は、私たちの生活だけでなく、地球（ちきゅう）や生物（せいぶつ）にもさまざまな影響（えいきやう）をあたえています。今後（きんご）化石燃料（かせきねんりょう）の使用（しやう）が続き、温室効果ガス（おんしつこうかガス）がふえ、この影響（えいきやう）は今（いま）よりも悪化（あくか）してしまいます。あなたは、地球温暖化（ちきゅうおんだんか）によって、さまざまな悪い影響（えいきやう）がおこっていることを知っていましたか？【1つだけ選んでください。】

- ①知っていた ②知らなかった

《地球温暖化（ちきゅうおんだんか）による悪い影響（えいきやう）》

- ・気温（きおん）が上がり生活（しやうか）がしづらくなる
- ・大型（たいがい）の台風（たいふう）や豪雨（ごうう）災害（さいがい）がふえる
- ・食物（しょくもつ）が増（ふ）えなくなり食料（じきりょう）不足（ふそく）する
- ・南極（なんきょく）の氷（こ）がとけて、陸地（りくち）が海（うみ）にのぼる
- ・ホッキョクグマなどの生物（せいぶつ）が絶滅（ぜつめつ）するかもしれない
- ・蚊（か）が生息地（せいそくち）を広（ひろ）げて伝染病（でんせんびやう）がふえる

《日本（にっぽん）や関川村（せきがわむら）が行（か）っている地球温暖化（ちきゅうおんだんか）を防（ふ）ぐための取組（とりぐみ）》

- ・省エネルギー化（しょうえねるぎーか）に関係（かんけい）した取組（とりぐみ）
 - ⇒省エネルギー化（しょうえねるぎーか）とはエネルギーのむだを少なくし、上手（じょうず）に使うことをいいます。
 - ・再生可能（さいせいねんりやう）エネルギーを作る取組（とりぐみ）
 - ⇒再生可能エネルギーとは太陽（たいやう）・風（かぜ）・水（みづ）・地熱（ちねつ）・バイオマスなどの自然（しぜん）の力（ちから）を利用してエネルギーを作ることをいいます。
 - ・森林（しんりん）の二酸化炭素（にさんかたんそ）吸収（きゆうしゆ）
 - ⇒森林（しんりん）は二酸化炭素（にさんかたんそ）をたくわえながら成長（せいちやう）します。植林（しょくりん）（しょくくりん）や適切（たてき）（たてき）な手入れ（しんり）をすることで空気（くうき）中の二酸化炭素（にさんかたんそ）の吸収（きゆうしゆ）をふやすことができます。

Q6. 地球温暖化（ちきゅうおんだんか）を食い止めるためには、生活（しやうか）によって出る温室効果ガス（おんしつこうかガス）を減（げん）らすことがとても重要（じゆうよう）です。次の行動（こうどう）をすれば私たちの生活（しやうか）で出る温室効果ガス（おんしつこうかガス）を少なくすることができますが、あなたやあなたの家族（かぞ）は地球温暖化（ちきゅうおんだんか）を防（ふ）ぐ（ふせぐ）ために、どんな取組（とりぐみ）を行っていますか？【あてはまるものすべて選んでください。】

①照明（しょうめい）や電化製品（でんかせいひん）を使わないときはこまめに消す

- ②なるべく家族（かぞ）と同じ部屋（へや）で過ごす
- ③エアコンの設定温度（せっていおんど）の上げすぎや下げすぎをしない
- ④家族（かぞ）で出かけるときは、バスか電車（でんしゃ）を使う
- ⑤ごみをなるべく出さないようにする
- ⑥夜更（よふかし）をせず、早寝早起（はやねはやおき）をする
- ⑦とくに取組（とりぐみ）していない
- ⑧その他

Q7. 地球温暖化（ちきゅうおんだんか）を防（ふ）ぐ、かけがえのない地球（ちきゅう）を将来（しょうらい）にも残（のこ）す（のこ）すためには、私たち一人一人（ひとりひとり）が少しずつでも良いので行動（こうどう）（こうどう）することが大切（たいせつ）です。あなたは今後（きんご）、どのような取組（とりぐみ）を行（か）っていきたくですか？【あてはまるものすべて選んでください。】

①照明（しょうめい）や電化製品（でんかせいひん）を使わないときはこまめに消す

- ②なるべく家族（かぞ）と同じ部屋（へや）で過ごす
- ③エアコンの設定温度（せっていおんど）の上げすぎや下げすぎをしない
- ④家族（かぞ）で出かけるときは、バスか電車（でんしゃ）を使う
- ⑤ごみをなるべく出さないようにする
- ⑥夜更（よふかし）をせず、早寝早起（はやねはやおき）をする
- ⑦とくに取組（とりぐみ）していない
- ⑧これから家族（かぞ）と話し合（か）ってできることを考えたい
- ⑨その他

Q8. 地球温暖化（ちきゅうおんだんか）を防（ふ）ぐ（ふせぐ）ために、これから、関川村（せきがわむら）ではどのような取組（とりぐみ）を行（か）っていきたくですか？【あてはまるものすべて選んでください。】

①村（むら）の人々（ひと）が地球温暖化（ちきゅうおんだんか）への対策（たいさく）をしっかりと意識（いしき）して生活（しやうか）を送（おく）る

- ②省エネルギー設備（せつび）をかしこく使い、エネルギーを効率（こうりつ）よく使う
- ③再生可能エネルギーを使い、化石燃料（かせきねんりょう）の消費（しょうひ）を少なくする
- ④車をなるべく使わず、便利（べんり）（べんり）に暮（く）らせるようにする
- ⑤森林（しんりん）をしっかりと手入れし、二酸化炭素（にさんかたんそ）をたくさん吸収（きゆうしゆ）できるようにする
- ⑥村（むら）で農業（のうぎやう）を行（か）うときに二酸化炭素（にさんかたんそ）をできるだけ出さないようにする
- ⑦地球（ちきゅう）にやさしい観光地（かんこうち）づくりをして、観光客（かんこうきゃく）をふやし、地域（ちいき）を元（もと）気にする
- ⑧その他

Q9. あなたが思いがけず関川村（せきがわむら）の将来（しょうらい）の姿（すがた）について地球温暖化（ちきゅうおんだんか）に関係（かんけい）すること以外（い）（い）が、でもいので考えていることを自由（じゆう）にかいてください。

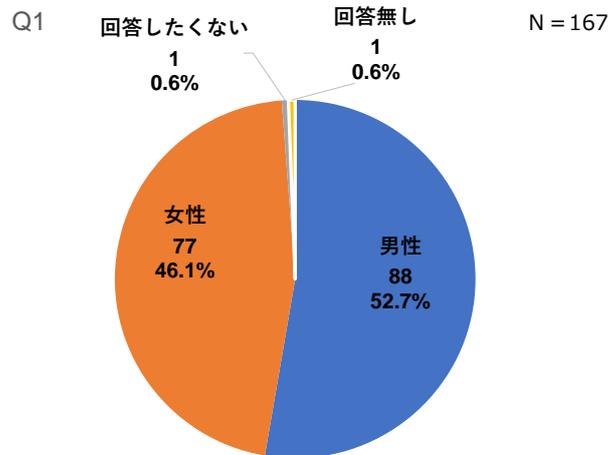
自由記述欄

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

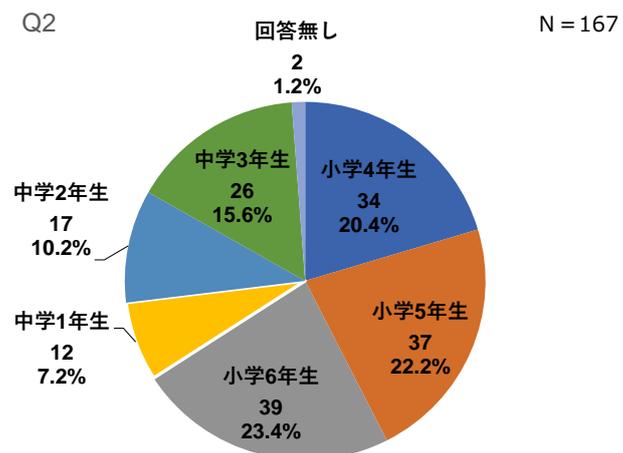
Q1: 性別

- ・[男性]が 52.7%、[女性]が 46.1%と、概ね半数ずつとなっている。



Q2: 学年

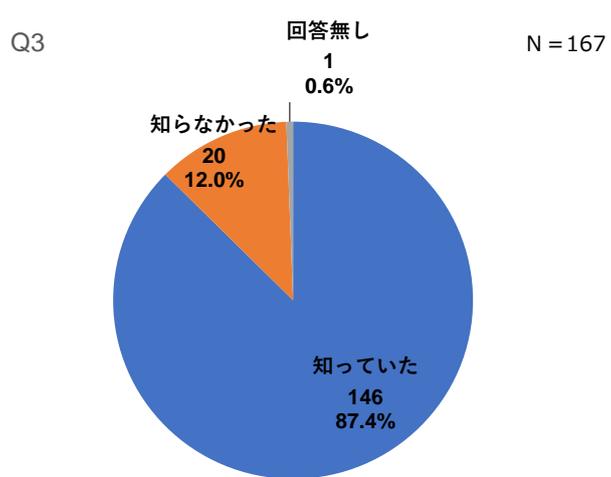
- ・[小学 6 年生]が 23.4%と最も多く、次いで[小学 5 年生]が 22.2%となっている。
- ・小学生(4~6 年生)の割合が全体の約7割を占めている。
- ・中学生は、どの学年も 15%以下である。



(2)地球温暖化に関する理解

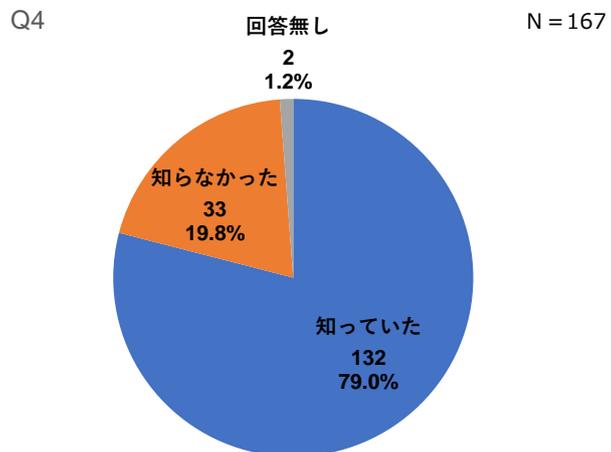
Q3:生活による二酸化炭素発生の理解

・[知っている]との回答が87.4%と、約9割を占めている。



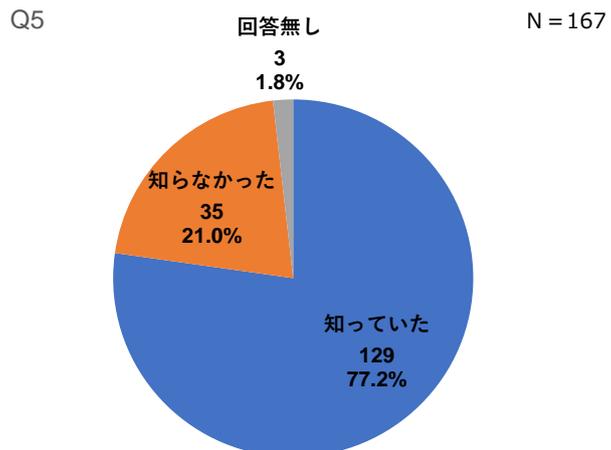
Q4:地球温暖化の理解

・[知っている]との回答が79.0%と、約8割を占めている。



Q5:地球温暖化による悪影響の理解

・[知っている]との回答が77.2%と、Q4と同様に約8割を占めている。

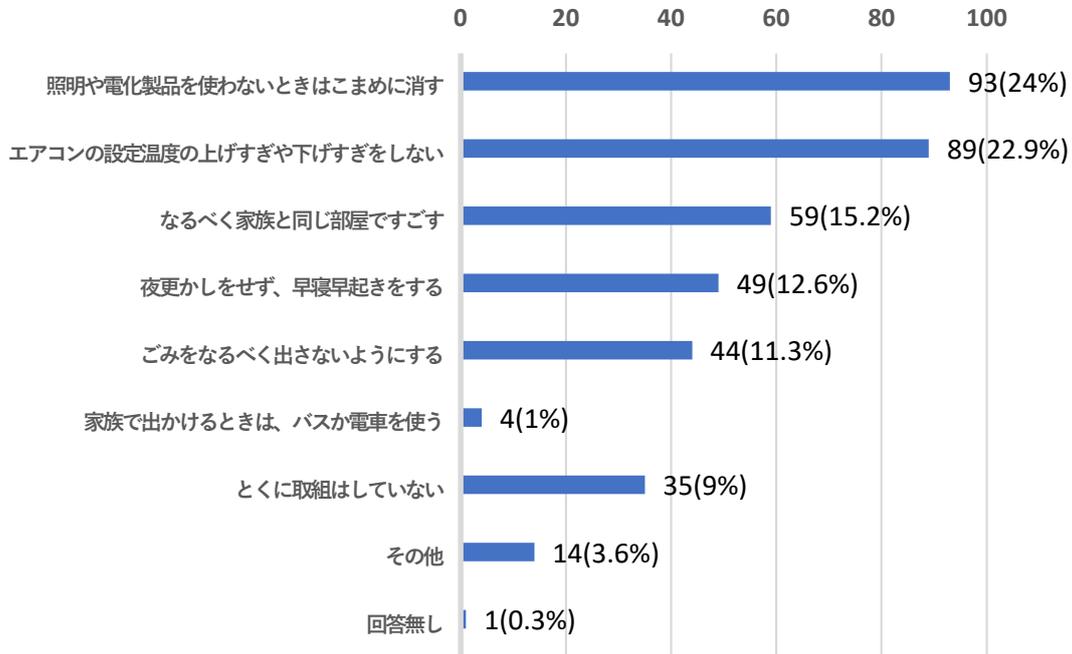


Q6:地球温暖化を防ぐために行っている取組み

- ・「実施している取組み」で最も多い回答は、「照明や電化製品を使わないときはこまめに消す」で24.0%だった。
- ・上位4項目は、いずれも「節電に関する取組み」となっている。

Q6

N=388 (複数回答)

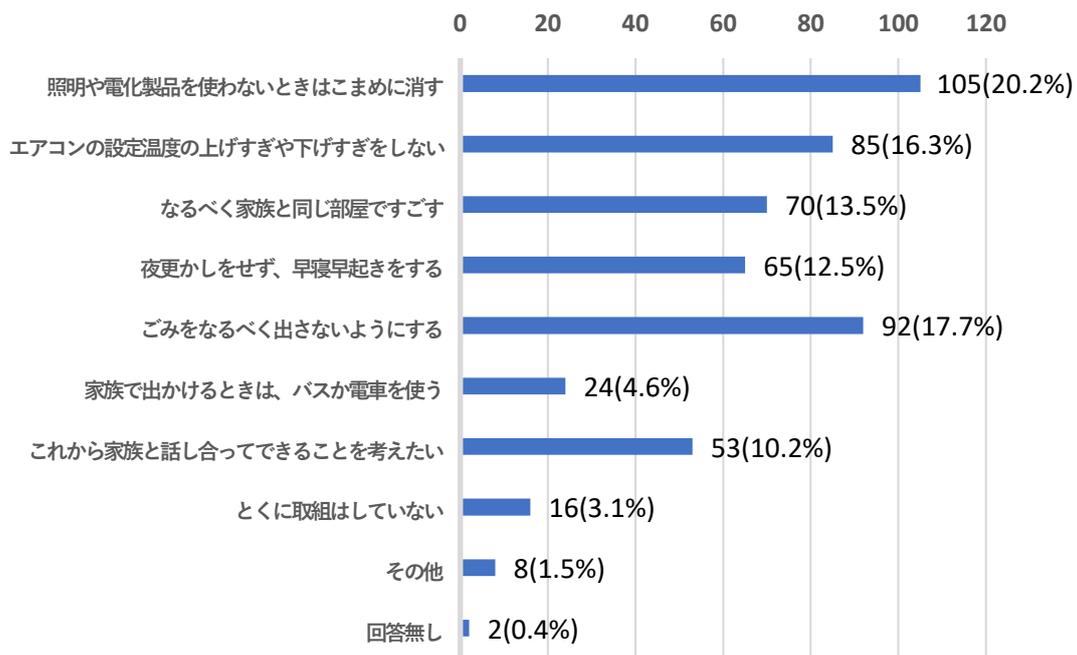


Q7: 地球温暖化対策で今後実施したい取組み

- ・Q6同様に「照明や電化製品を使わないときはこまめに消す」が20.2%で最も多く、次いで「ごみをなるべく出さないようにする」が17.7%となっている。
- ・Q6と比較して「とくに取組はしていない」が9.0%から3.1%と減り、「これから家族と話し合ってできることを考えたい」が10.2%となっていることから、「今後は地球温暖化対策に取組みたい」と考えていることが読み取れる。

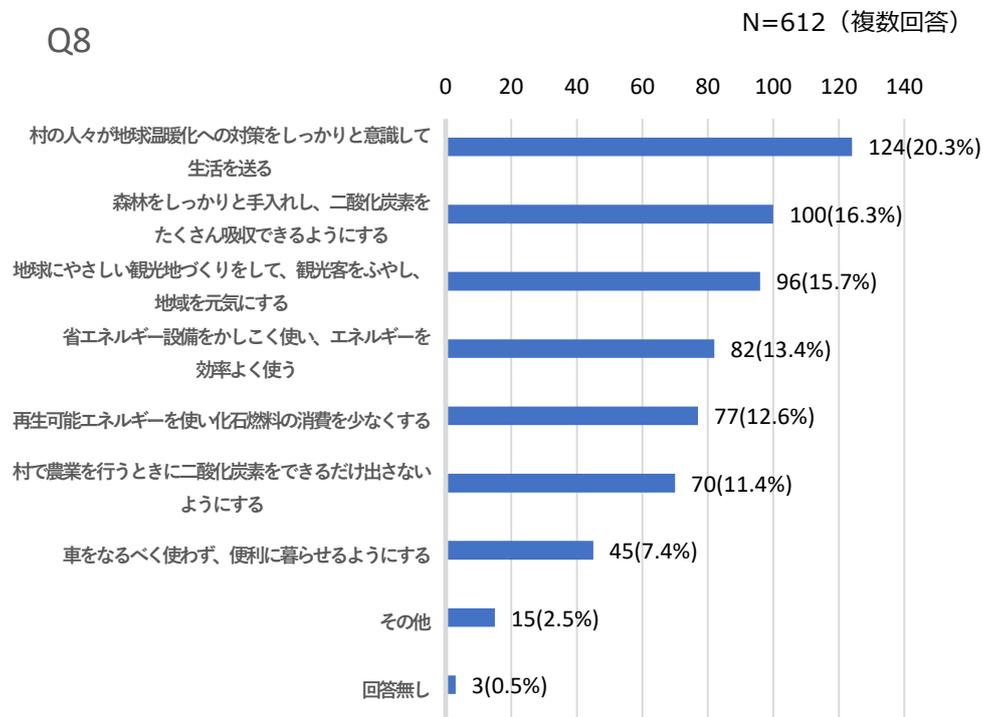
Q7

N=520 (複数回答)



Q8:地球温暖化対策として、関川村が今後行うべき取組み

- ・[村の人々が地球温暖化への対策をしっかりと意識して生活を送る]が 20.3%と最も多く、次いで[森林をしっかりと手入れし、二酸化炭素をたくさん吸収できるようにする]が 16.3%となっている。
- ・[車をなるべく使わず、便利に暮らせるようにする]が 10%未満と少ないことから、車を使用しない生活は難しい事が予想される。



(3)あなたが思いえがく関川村の将来の姿について(自由記述)

【地球温暖化に関する事項】

男・小学6年生:みんなで地球温暖化をふせいでいけばいいとおもう。
女・小学6年生:何かを節約したらいい。
男・小学6年生:なるべく火を使わないようにし電気を無駄にしない。
男・小学4年生:ゴミを減らす。
女・小学4年生:自然を守りあまり二酸化炭素を出さない。自然豊かで二酸化炭素を出さないこと。
男・小学5年生:CO2(二酸化炭素)排出を削減し車に乗らずバスや電車を使おうと思いました。
男・小学5年生:ガスを出さない車を作り地球温暖化が進まないようにしたい。森や林を少なくしないで酸素をいっぱいにしていきたいです。
女・小学6年生:地球温暖化を防ぐには、自分たちにどんな事ができるかを考えて、できる限りのことを行ったほうが良いと思った。
男・小学6年生:二酸化炭素を出さず地球温暖化を防ぐ村。
女・小学6年生:二酸化炭素を出さないようにする。二酸化炭素が減っていて地球にやさしい環境。
男・中学2年生:環境問題を少しでも減らせるように努力する。
女・中学3年生:地球を守っていくために自分自身から工夫をしていきたい。
男・中学3年生:動物と人類の共存、村の木材を活用した暖房を使い、出た二酸化炭素を村の木に吸収させるような空気を循環させる取組み。
男・中学3年生:村では農業が盛んなので、二酸化炭素を出すことが多いので減らしていく取組みをしていきたいと思いました。

【自然・環境に関する事項】

男・小学5年生:自然を大切にしている緑豊かな関川村で、いてほしい。
女・小学5年生:自然が無くならない関川村になってほしい。
男・小学6年生:自然が豊かで、みんなが良いひと。
女・小学6年生:関川村は、今も自然がたくさんあるけど、今後も自然がある村でいてほしい。
女・小学6年生:きれいな水を飲んだりできるように、ポイ捨てなどを減らす。
男・小学4年生:自然を壊さない、みんなが元気に過ごせる関川村にしたい。
男・中学1年生:生き物や植物がイキイキと暮らし笑顔でいっぱいの関川村。
女・中学3年生:自然豊かで、空気がきれい。
女・中学3年生:ポイ捨てなどが無い環境になってほしい
男・中学3年生:森林伐採が増えているけど、大丈夫かなって不安です。
女・小学4年生:自然を残して家がいっぱいある関川村にしたい。

※多数回答:自然を残していく/自然豊かな町/自然を大切にしたい/緑青とした村/安全で自然豊かなところになってほしい/緑がいっぱいそのまま発展し、人口が増える/自然豊かのままみんなが笑顔の関川村/みんなに住みやすい村自然が傷つかない村

【人口問題に関する事項】

女・小学6年生:人口が増えて自然が豊かな、関川村を残していく。
女・小学6年生:これからもっと人口が少なくなっていくと思うから、この場所に残りたいなと思えるような村にしたほうが良いと思う。
男・小学6年生:関川村に住む人が増えて関川村が賑やかになってほしい。
男・小学6年生:人口が増えて、大きな村になって争いのない平和な村。
女・小学6年生:移住してくる人が増え、今よりイベントが増えたりして活気のある村になり、もっと自然豊かな村になる。

女・小学 6 年生：移住してくる人が増え、活気のある村になる。
男・小学 4 年生：自然豊かで、人口が多くなる。
男・小学 4 年生：緑がいつぱいのまま発展し人口が増える。
男・中学 3 年生：働く場所を増やし、人口を増やす。
男・中学 3 年生：人口がだんだん減っているから減らないための対策をする。
男・中学 3 年生：人口が多くていきいきした関川村。

【観光客に関する事項】

女・小学 4 年生：観光地が1～3ぐらいあって自然豊かな村にしたい。
女・小学 5 年生：観光客がたくさんいて、自然がモチーフの観光スポットがある関川村になってほしい。
男・小学 6 年生：観光客を増やす。
女・小学 5・6 年生：観光客を増やす。
女・小学 6 年生：地球にやさしい観光地づくりをして観光客がたくさん増える将来がいいと思いました。
女・小学 6 年生：観光客をもっと増やすために関川村の魅力を県外の方などに伝える活動をする。
男・小学 6 年生：有名な観光地。
男・小学 6 年生：観光地づくりをして、観光客を増やして村民を増やして行って、地域を元気にすること。
女・小学 6 年生：観光客がもっと増えて賑やかになるといいです。そして地球にも優しい村になるといいです。
女・小学 6 年生：自然は多いほうだと思うので、このまま自然が多いのをたもち、もっと観光客を増やしたりするのがいいと思う。
男・中学 1 年生：関川村の自然を生かして観光客を増やして行ってほしい。
女・中学 1 年生：村民以外にも関川村に訪れた観光客にも関川村に安心して観光してもらえる村にしていきたいです。そのために、一人ひとりが二酸化炭素をなるべく出さないような生活を心がけて行くことが大切だと思いました。そして、村民も観光客も気持ちの良く過ごせるようにしたいです。
女・未回答：観光の人が「また、きたい」と思ってもらえるような関川村。
男・中学 3 年生：少子高齢化を防ぐために観光客を増やす。

【建物・村・村民に関する事項】

女・小学 6 年生：お店をもっと作って欲しい。
女・小学 6 年生：水がなくなる。村民がいなくなる。仕事が終わってから坂町の原信に行くからそれがめんどろと思うからスーパーを造ってほしい。
女・小学 4 年生：自然を使って公園を作って欲しい自然がなくなるかもしれませんが都会になってほしいです。
男・中学 3 年生：道の駅にマックなどのチェーン店がある。
男・中学 3 年生：遊ぶ場所がふえるといいなあ。
女・中学 3 年生：人がたくさんいて便利な建物がある。
男・未回答：商業施設をもう少し増やしてほしいです。理由は、自分の身近に商業施設があるので休日友だちと遊びに行くことができ、毎日の楽しみが増えていいなと思うからです。また、観光客を増やすことにも繋がると思います。
女・小学 5 年生：新潟市のような自然もある少しだけ都会のような村にしたい。
男・小学 5 年生：川がきれいで誰でも暮らせる町になってほしい。
男・小学 5 年生：動物がたくさんいて自然が豊かで差別やいじめがなく政治や技術が進んでいるみんなが住みやすく住み続けたいと思うような関川村。
男・小学 6 年生：関川村の行事を増やしたりすることで、関川村の住民の関わりが増えるから行事を増やす。
女・未回答：地域の人や近くに住んでいる人と、気軽に話ができる関川村。

女・中学 1 年生：明るく、助け合える姿がたくさん見られると良いと思います。
女・中学 2 年生：明るく賑わいのある村になってほしい。
女・中学 2 年生：もっと活気のある村、そして来た人が「また行きたい」と思えるような村にしていきたい。
男・中学 2 年生：村長が頭良くなって関川村のことをしっかり考える。
女・小学 6 年生：新しい建物のせいで木とか伐採されて新しい土地になって今までその人が必要としていたものが壊れるのは悲しいです。私は今のままを続けて行ってほしいです。空き家を使うなど。
女・中学 3 年生：今まで通り、みんなが安心して暮らせる関川村。

【その他の事項】

女・小学 4 年生：いじめのない平和の村にしたいです。
女・小学 5 年生：すききらいせず食べ物をなるべく残さない。
女・小学 6 年生：車じゃなくてもたくさんの移動手段がある。
男・小学 6 年生：交通手段が便利になる。
男・中学 3 年生：関川をいい未来にするために、今やっている活動を最大限に支えるものにして、その結果を残すことがいい未来につながると思います。
男・小学 5 年生：電力がなくても電気が使える村。
男・小学 5 年生：農業をやる人をもっともっと増やしたい。
女・中学 2 年生：設備がいつまでもきれいだと嬉しいです。

1-1-3 村内事業者へのアンケート調査

1. 調査概要

(1)調査目的

本村におけるゼロカーボンに関する課題や政策の方向性について、村内の事業者の考えや意見を把握し、施策に反映することを目的とする。

(2)調査方法

- ①調査地域: 関川村全域
- ②調査対象: 関川村内の主要な事業者
- ③配布数: 94 事業者
- ④調査方法: 郵送回答方式及び WEB 回答方式
- ⑤調査期間: 2022 年 6 月 30 日～2022 年 7 月 15 日

(3)調査項目

- ①回答者の属性 (Q1-1～5)
- ②脱炭素化や気候変動問題、再エネ設備について
 - 地球温暖化や気候変動に関する関心 (Q2-1)
 - 地球温暖化防止に向けた取組について (Q2-2～10)
 - 脱炭素に関する村への要望 (Q2-11)

(4)回収結果

- ①総回収数 : 44 票(郵送 37 票、WEB7 票)
- ②回収率 : 47.3%(44 票/93 票)

【アンケート票】

2050年ゼロカーボン[®]に向けた事業者アンケート調査へのご協力をお願い

日頃から村政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、関川村では、2050年のゼロカーボンの実現に向けて再生可能エネルギー（再エネ）や省エネルギー（省エネ）に関わる各種調査や取組の検討を行っています。
具体的には「関川村の今後の取組」(別紙)に記載の事項について検討を行う予定です。
このアンケート調査は、本村における脱炭素化に関する課題や、脱炭素に係る政策の方向性について、**関川村の主要企業の皆様**のお考えやご意見をお聞きし、施策に反映するために実施するものです。

ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理いたしますので、**回答された情報を公表することや、本調査以外に使用することはありません。**

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本アンケート調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

令和4年7月 関川村長 加藤 弘

……ご回答にあたってのお願い……

1. 本アンケートは、回答用紙での回答のほか、Webでも回答が可能です。ゼロカーボンについて、「国内外で注目を浴びる「ゼロカーボン（脱炭素）」とは？」で解説をしています。参考資料としてご覧ください。

①用紙での回答

：設問について、 部分への記入、及びあてはまる選択肢を でご回答ください。

【QRコード】



②WEBでの回答
：右記のQRコードよりアンケートサイトに接続し回答してください。

2. 回答が完了しましたら、**令和4年7月15日（金）消印有効**までに、**同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに郵便ポストにご投函ください。**なお、メールやFAXでの回答も受け付けております。

アンケート調査機関（委託先）
大日本コンサルタント株式会社 環境エネルギー推進部 奥島、菊村、新井
〒330-6011 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2-1 11階
TEL：048-613-4856 / FAX：048-600-6681 / Eメール：r04-sekikawa-energy@ncn.co.jp

本アンケート調査に関する問い合わせ先
関川村 地球政策課 脱炭素推進室 小島、黒田、小島
〒859-3292 新潟県新井郡関川村大字下野 912番地
TEL：0254-64-1478 / FAX：0254-64-0079 / Eメール：daitsutan@vil.sakikawa.lg.jp

※ 地球温暖化の抑制である温室効果ガスの排出量を削減することが目的です。脱炭素化やカーボンニュートラルとも呼ばれます。

アンケート回答〆切：令和4年7月15日（金）（消印有効）
回答先：大日本コンサルタント(株)

アンケート調査票

◀◀ご回答いただく貴事業所の情報についてお伺いいたします。▶▶

01-1. 貴事業所の名称等を可能な範囲でご記入ください。

名称	
ご担当部署	
ご担当者名	
電話番号	
Eメール	

01-2. 貴事業所の主な業種1つをお答えください。

<input type="checkbox"/> 農林業	<input type="checkbox"/> 水産業	<input type="checkbox"/> 建設業	<input type="checkbox"/> 製造業
<input type="checkbox"/> 運輸、通信業	<input type="checkbox"/> 卸売、小売業	<input type="checkbox"/> 金融、保険業	<input type="checkbox"/> 不動産業
<input type="checkbox"/> 飲食店、宿泊業	<input type="checkbox"/> 医療、福祉	<input type="checkbox"/> サービス業	<input type="checkbox"/> その他

01-3. 貴事業所の形態をお答えください。

<input type="checkbox"/> 事務所・営業所	<input type="checkbox"/> 店舗・飲食店
<input type="checkbox"/> ホテル・旅館	<input type="checkbox"/> 倉庫・輸送センター・配送センター
<input type="checkbox"/> 工場	<input type="checkbox"/> その他

01-4. 貴事業所のパート・アルバイトを含む従業員数をお答えください。

<input type="checkbox"/> 1～5人	<input type="checkbox"/> 6～10人	<input type="checkbox"/> 11～20人	<input type="checkbox"/> 21～50人
<input type="checkbox"/> 51～100人	<input type="checkbox"/> 101人以上		

01-5. 貴事業所の操業年数をお答えください。

<input type="checkbox"/> 10年未満	<input type="checkbox"/> 10～30年未満	<input type="checkbox"/> 30～50年未満	<input type="checkbox"/> 50年以上
--------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------

◀◀脱炭素化や気候変動問題、再エネ設備に関してお伺いします。▶▶

02-1. 昨年、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量の増加に伴う地球温暖化により、集中豪雨や異常高温等が増え、土砂災害や農作物への影響などが発生しています。こうした、異常気象などの気候変動が問題視されていますが、あなたは地球温暖化や気候変動にどの程度関心がありますか。

<input type="checkbox"/> 関心がある
<input type="checkbox"/> ある程度関心がある
<input type="checkbox"/> あまり関心がない
<input type="checkbox"/> まったく関心がない

02-2. 地球温暖化対策として、貴事業所で実施している行動についてお答えください。(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 太陽光パネル等の再生エネルギーによる発電設備の導入
<input type="checkbox"/> 再生エネルギーを使った熱利用設備の導入（木質ボイラー・薪ストーブの設置等）
<input type="checkbox"/> 再生エネルギーの契約
<input type="checkbox"/> 節電（こまめな消灯等）
<input type="checkbox"/> 照明等の省エネ化（LED照明等）
<input type="checkbox"/> ボイラー等の省エネ化（高効率ボイラーへの更新等）
<input type="checkbox"/> 省エネ化に向けた施設の改修（屋根の断熱改修等）
<input type="checkbox"/> 業務・産業用蓄電池の設置
<input type="checkbox"/> エネルギーマネジメントシステムの導入
<input type="checkbox"/> 熱電併給システム（コージェネレーションシステム）の導入
<input type="checkbox"/> 省エネ診断の実施
<input type="checkbox"/> 社員へのエコドライブの推進
<input type="checkbox"/> エコカーの購入（ハイブリッド車、電気自動車等）
<input type="checkbox"/> 農業用器具、土木機械等の電動化（刈払機、コンクリートハンマ等）
<input type="checkbox"/> 温室効果ガス排出量の調査・把握
<input type="checkbox"/> 電気・ガス等のエネルギー使用量の調査・把握
<input type="checkbox"/> 温室効果ガス排出量の削減目標の設定
<input type="checkbox"/> 廃棄物の減量化・資源化
<input type="checkbox"/> 脱炭素や環境安全に関する従業員への環境教育の実施
<input type="checkbox"/> いずれも実施していない⇒Q2-4をご回答ください
<input type="checkbox"/> その他

02-3. 02-2で「いずれも実施していない」と答えた場合は、地球温暖化に關する行動を実施していない理由をお答えください。(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 温暖化に興味がない
<input type="checkbox"/> 温暖化対策の必要性を感じない
<input type="checkbox"/> 温暖化対策実施によるメリットがない
<input type="checkbox"/> 温暖化対策実施のための情報が得られない
<input type="checkbox"/> 温暖化対策について相談したいが窓口がない、わからない
<input type="checkbox"/> 手続き等がわずらわしい、面倒である
<input type="checkbox"/> 再生エネルギー設備等の導入費用が高い
<input type="checkbox"/> 再生エネルギー設備等の維持費用が高い
<input type="checkbox"/> 事業所の構造上、導入が難しい
<input type="checkbox"/> 何をすれば良いかわからない
<input type="checkbox"/> その他

02-4. 貴事業所において再生可能エネルギーの導入や再生エネルギーの購入を行っていますか。行っている場合は各項目の内容について可能な範囲でお答えください。

<input type="checkbox"/> 再生エネルギー設備を導入している ⇒ ①～④についてご記入ください
①再生エネルギー種類： <input type="checkbox"/> (例：太陽光発電、バイオマス発電など)
②使用方式： <input type="checkbox"/> OFTによる売電 <input type="checkbox"/> 自家消費 <input type="checkbox"/> その他
③設備の出力： <input type="checkbox"/> (例：50 kW)
④発電量： <input type="checkbox"/> (例：50 MWh/年)
<input type="checkbox"/> 再生エネルギー設備を導入している ⇒ ①～③についてご記入ください
①再生エネルギー種類： <input type="checkbox"/> (例：太陽熱利用、バイオマスボイラーなど)
②設備の出力： <input type="checkbox"/> (例：集熱面積 10㎡、50 kW)
③発電量： <input type="checkbox"/> (例：50 MWh/年)
<input type="checkbox"/> 再生エネルギーを購入している ⇒ ①～②についてご記入ください
①電力購入量： <input type="checkbox"/> (例：10MWh/年)
②購入金額： <input type="checkbox"/> 万円/年
<input type="checkbox"/> いずれも行っていない

02-5. 貴事業所の冷暖房機の設置または更新年についてお答えください。

<input type="checkbox"/> 1～5年前	<input type="checkbox"/> 6～10年前	<input type="checkbox"/> 11～15年前	<input type="checkbox"/> 16～20年前
<input type="checkbox"/> 21年以上前	<input type="checkbox"/> わからない		

02-6. 貴事業所のLED電球の導入状況についてお答えください。

<input type="checkbox"/> 照明はすべてLED化済みである
<input type="checkbox"/> 照明のうち半分以上はLED化済みである
<input type="checkbox"/> 照明のうち一部はLED化済みである
<input type="checkbox"/> まったくLED化を行っていない

02-7. 今後の脱炭素対策に取り組む予定はありますか。

<input type="checkbox"/> 具体的な取り組みを行う予定である
<input type="checkbox"/> 具体的な計画はないが取り組んでいきたい
<input type="checkbox"/> 今のところ対策を行う見込みはない
<input type="checkbox"/> その他

Q2-8. 地球温暖化対策として、今後、実施する予定がある、もしくは、実施したい行動をお答えください。(複数選択可)

- 太陽光パネル等の再生エネルギーによる発電設備の導入
- 再生エネルギーを使った熱利用設備の導入 (木質ボイラーや薪ストーブの設置等)
- 再生エネルギーの契約
- 節電 (こまめな消灯等)
- 照明等の省エネ化 (LED 照明等)
- ボイラー等の省エネ化 (高効率ボイラーへの更新等)
- 省エネ化に向けた施設の改修 (屋根の断熱改修等)
- 業務・産業用蓄電池の設置
- エネルギーマネジメントシステムの導入
- 熱電併給システム (コージェネレーションシステム) の導入
- 省エネ診断の実施
- 社員へのエコドライブの推進
- エコカーの購入 (ハイブリッド車、電気自動車等)
- 農業用器具、土木機械等の電動化 (刈払機、コンクリートハンマ等)
- 温室効果ガス排出量の調査・把握
- 電気・ガス等のエネルギー使用量の調査・把握
- 温室効果ガス排出量の削減目標の設定
- 廃棄物の減量化・資源化
- 脱炭素や環境保全に関する従業員への環境教育の実施
- その他 ()

Q2-9. 貴事業所では、再生可能エネルギー、省エネルギー、電力購入等の具体的な導入計画はありますか。

- 再生エネルギー設備の具体的な導入計画がある⇒①～③についてご記入ください
- ①再生エネルギー種類： (例：太陽光発電、バイオマス発電など)
- ②使用方法： FIT による売電 自家消費 その他 ()
- ③設備の出力規模： (例：50 kW)
- 再生エネルギー設備の具体的な導入計画がある⇒①②についてご記入ください
- ①再生エネルギー種類： (例：太陽熱利用、バイオマス熱利用など)
- ②設備の出力規模： (例：集熱面積 10m² 出力 50 kW)
- 省エネに関する具体的な導入計画がある⇒①②についてご記入ください
- ①省エネ種類： (例：LED 照明、断熱改修、設備更新など)
- ②削減見込み量： (例：既存エネルギー消費量の 3%程度削減など)
- 再生エネルギー購入の計画がある⇒①についてご記入ください
- ①電力購入量： (例：10MWh/年)
- 具体的な導入計画はない

4

Q2-10. 村では村内での再生エネルギーの導入を進めていきたいと考えています。村内で作られた再生エネルギーの利用に関する考えについてお答えください。

- ①電力価格等の条件が現在と同じでなくても契約したい
- ②電力価格等の条件が現在と同じであれば契約したい
- ③電力価格等の条件が現在と同じであっても契約したくない
- ④わからない

Q2-11. 脱炭素の実現に向けて今後、行政が優先的に取り組むべきだと考えられる対策をお答えください。(複数選択可)

- 家庭や企業の再生エネルギーや省エネルギー等の設備導入費用への補助
- 再生エネルギーや省エネルギー設備の購入時にエコポイント等の特典を付与し、温暖化対策を促す制度
- 地域の再生エネルギーを地域内で使えるようにするための施策
- 公共施設への再生エネルギーや省エネルギー設備の導入
- 二酸化炭素の吸収源である緑地や森林の整備促進
- 復旧への再生エネルギーや省エネルギー導入等に関する相談窓口の設置
- 家庭や企業への再生エネルギーや省エネルギーの安心できる設備会社の紹介
- 村民・事業所・行政など、地域全体が一丸となって取り組める体制の構築
- 脱炭素化の機運を高めるための積極的な情報提供
- 特に優先すべき取組はない
- その他 ()

Q2-12. 村への地球温暖化や環境問題に関するご意見やご要望がありましたら、下記コメント欄にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

5

2. 調査結果

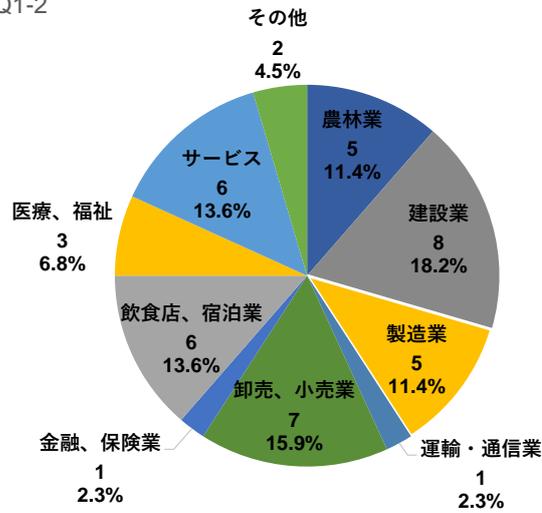
(1) 回答者の属性

Q1-2: 業種

・[建設業]が18.2%と最も多く、次いで[卸売、小売業]が15.9%となっている。

Q1-2

N = 44

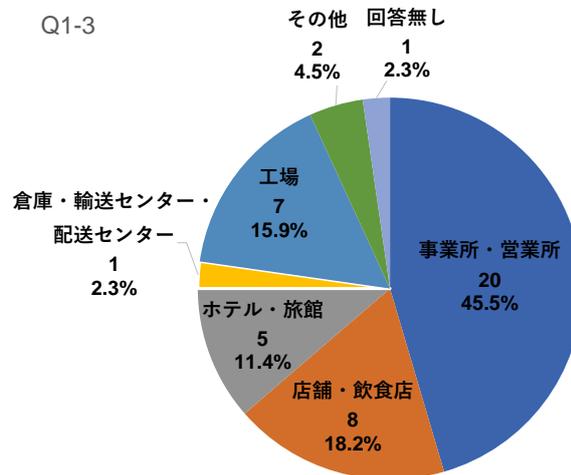


Q1-3: 事業所形態

・[事業所・営業所]が45.5%と約半数を示している。[店舗・飲食店]も18.2%と比較的高い割合となっている。

Q1-3

N = 44

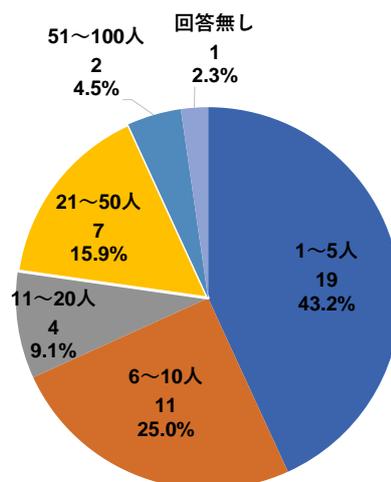


Q1-4:従業員数

- ・[1～5 人]が 43.2%と最も多く、次いで[6～10 人]が 25.0%となっている。
- ・「10 人以下」の事業所が約7割を占めている。

Q1-4

N = 44

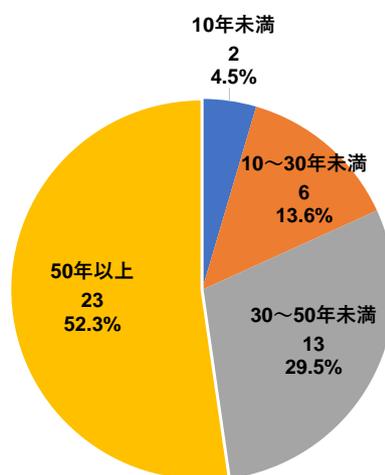


Q1-5:操業年数

- ・[50 年以上]が 52.3%と半数以上を占めている。
- ・「30 年以上」の事業所が8割以上を占めている。

Q1-5

N = 44



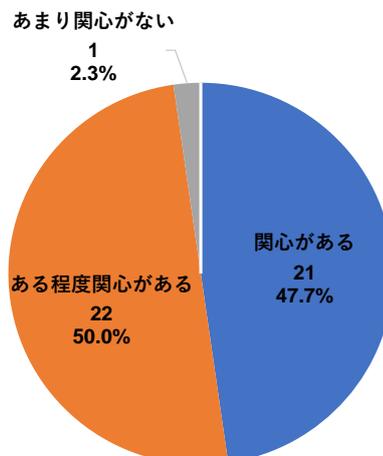
(2)地球温暖化に関する関心及び脱炭素に関する認知度

Q2-1:地球温暖化や気候変動への関心

Q2-1

N = 44

- ・[関心がある][ある程度関心がある]との回答が9割以上を占めている。

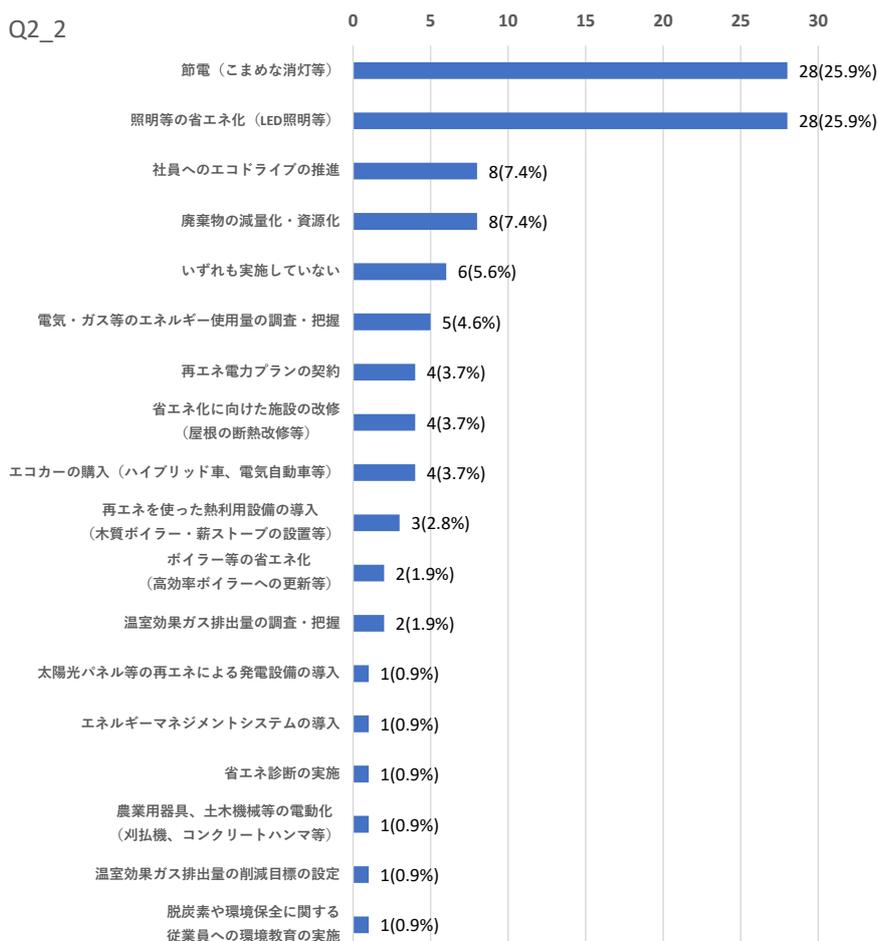


Q2-2:地球温暖化対策で実施している行動

- ・[節電]と[照明等の省エネ化]がともに 25.9%と、最も多く、両方で約5割を占めている。

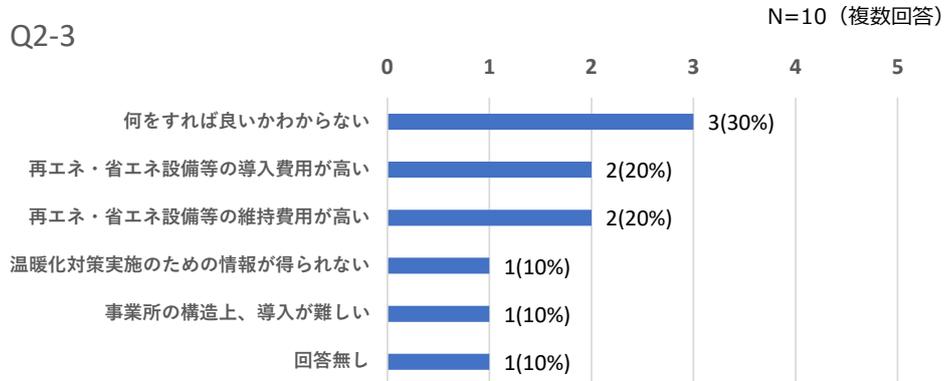
N=108 (複数回答)

Q2_2



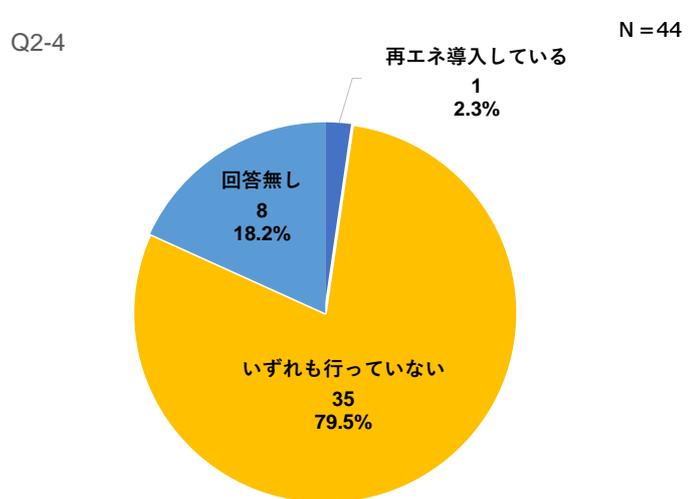
Q2-3: 地球温暖化に関する行動を実施していない理由

- ・Q2-2 の【いずれも実施していない】と回答した方の実施していない理由は、[再エネ・省エネ設備等の導入費用が高い][再エネ・省エネ設備等の維持費用が高い]がともに 20.0%と最も多く、両方で約4割を占めている。
- ・一方、[何をすれば良いかわからない]が約3割を占めている。



Q2-4:「再エネの導入」や「電力の購入」状況

- ・【いずれも行っていない】が 79.5%と約8割を占めている。



※導入している再エネ発電設備の種類:[太陽光発電]

再エネ発電の使用方法:[FIT による売電]

再エネ発電の設備出力:[46kW]

再エネ発電の発電量:[不明]

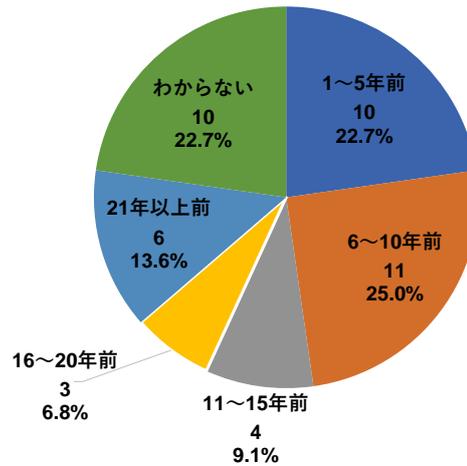
なお、[再エネ熱利用設備の導入]と[再エネ電力を購入]している事業所はいずれも無い。

Q2-5:冷暖房機の設置または更新年時期

・[6～10年前]が25.0%と最も多く、次いで[1～5年前]が22.7%となっており、併せて「10年前」が約半数を占めている。

Q2-5

N = 44

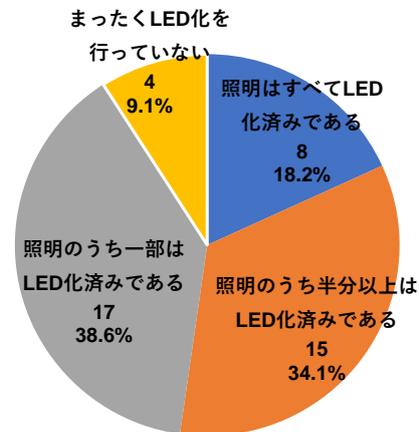


Q2-6:LED電球の導入状況

・[一部はLED化済み]が38.6%と最も多く、次いで[半分以上はLED化済み]が34.1%、[すべてLED化済み]が18.2%となっており、「一部でもLED化済み」は、約9割を占めている。

Q2-6

N = 44

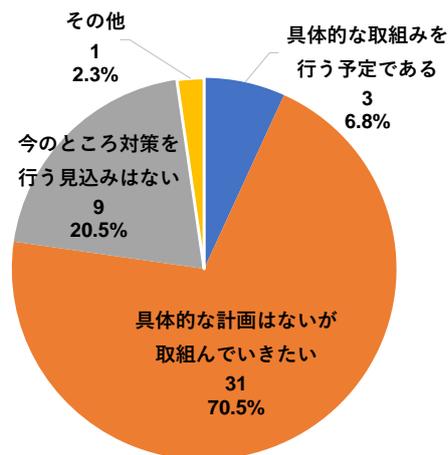


Q2-7:今後の脱炭素対策への取組み

・[具体的な取組を行う予定である]が6.8%、[具体的な計画はないが取組んでいきたい]が70.5%と、両方で約8割を占めている。

Q2-7

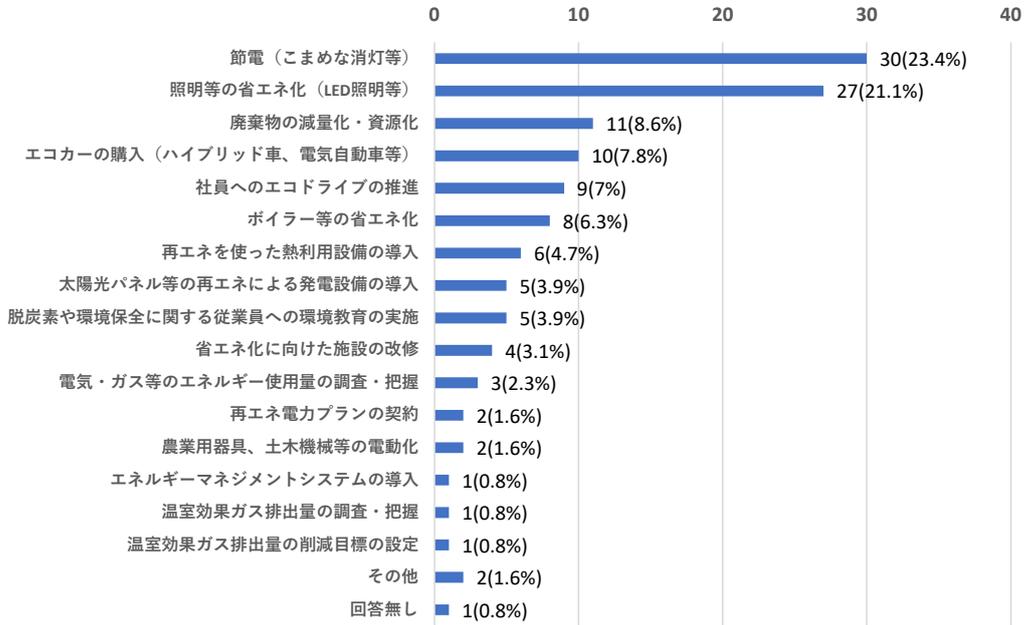
N = 44



Q2-8:地球温暖化対策として、今後、実施する予定がある、もしくは、実施したい行動
 ・[節電]が23.4%と最も多く、次いで[照明等の省エネ化]が21.1%となっており、両方で約5割を占めている。

N=128 (複数回答)

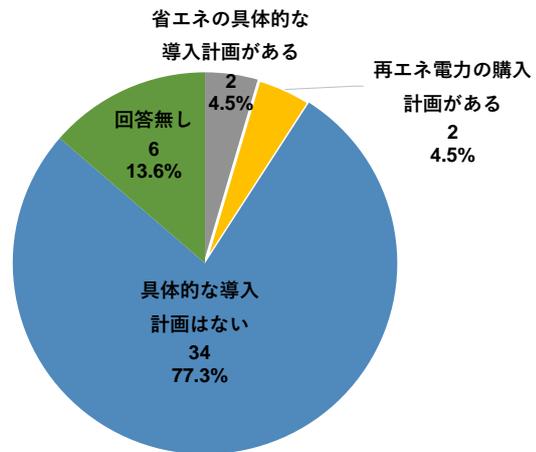
Q2-8



Q2-9:再生可能エネルギー、省エネルギー、電力購入等の具体的な導入計画
 ・[具体的な導入計画はない]が77.3%と、約8割近くを占めている。

Q2-9

N = 44

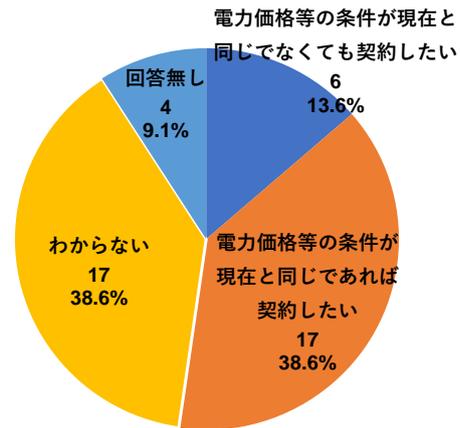


Q2-10: 村内で作られた再エネ電力の利用

- ・[電力価格等の条件が現在と同じであれば契約したい]が38.6%と最も多い。
- ・[電力価格等の条件が現在と同じでなくても契約したい]を含めた【契約したい】との回答が約 5 割を占めている。

Q2-10

N = 44

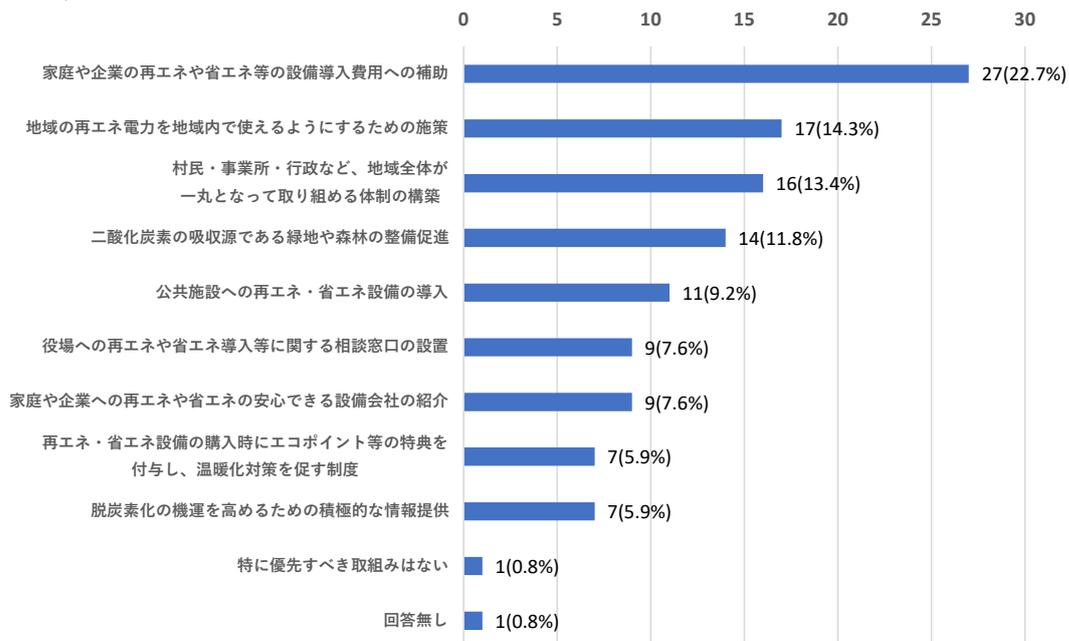


Q2-11: 今後、行政が優先的に取り組むべき対策

- ・[家庭や企業の再エネや省エネ等の設備導入費用への補助]が22.7%と最も多い。また、「施策づくり」「体制構築」「森林の整備促進」に関する対策も比較的高い割合を示している。

N=119 (複数回答)

Q2-11



(3)村への地球温暖化や環境問題に関する意見や要望(Q2-12:自由記述)

【村への地球温暖化や環境問題に関する事項】

医療・福祉:ゴミの分別が他市町村よりもアバウトだと思います。再利用可能な資源をしっかりと活用していけるよう、もう少し分別を細かくしても良いかと思ひます。再生可能エネルギーへの取組事例の紹介等、会合があつても良いかと思ひます。

サービス業:EV 車購入補助(自治体)・家庭用コンパクト再エネ設備の導入促進・薪ストーブ購入補助。

サービス業:幅広く村民からの意見を取り入れた、実行可能かつ現実的な対策をとっていただきたく思ひます。

飲食店・宿泊業:各種成功事例等など情報提供をお願いします。